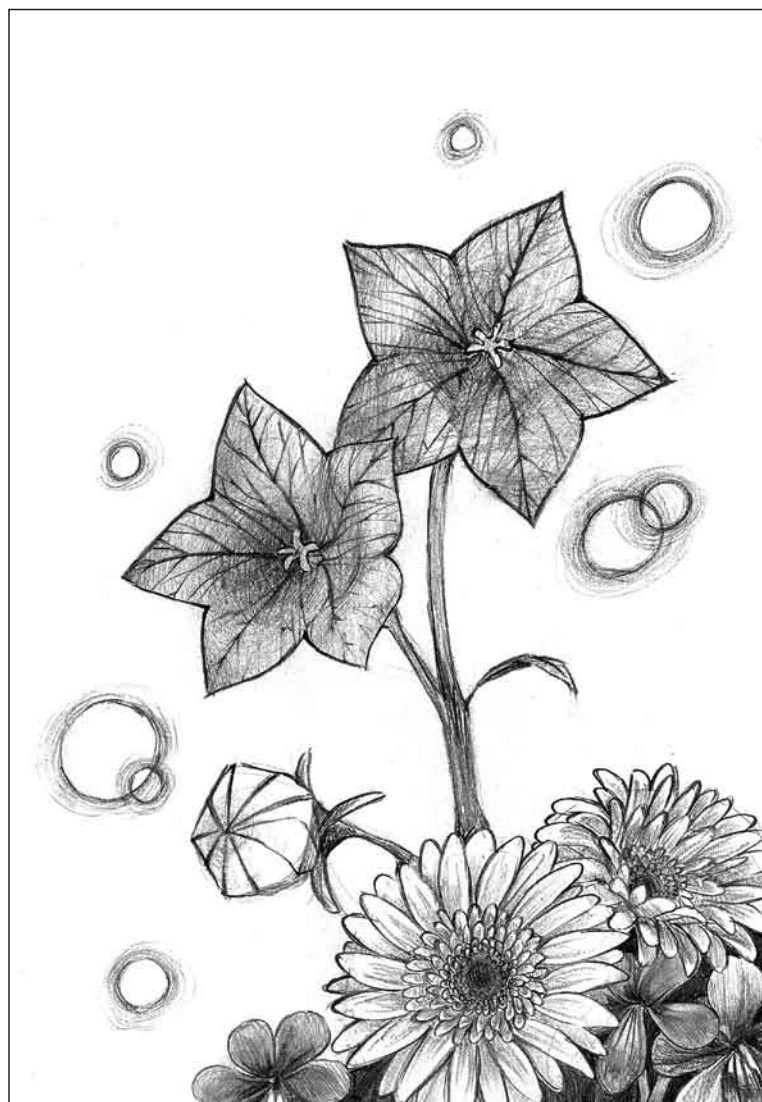


ちよつとい話

13



瑞浪市

『ちよつといい話』を手にしてくださいました皆さんへ

『ちよつといい話』は、皆さんが日々の生活の中で見たり聞いたり体験した、心が温かくなる出来事を取りまとめた小冊子です。

『ちよつといい話』の募集を始めて13年目となりました。今年度は、1,500人の方からご応募いただきました。これまでに、延べ12,163人の方にご応募いただいております。ページの都合上、すべてのお話を紹介することはできませんでしたが、お話をお寄せいただきました皆様に深く感謝します。

毎日の生活の中で、皆さんが感じた嬉しい気持ちや、感心したり、勇気をもったりした出来事など、自分の心にしまっておくだけではもったいないような心の温かくなる話のおすそわけとなっています。

この冊子を手にしていただいたあなたにも、毎日の生活の中で、人と人とのつながりを思い返すきっかけになれば幸いです。

も く じ



◆ 一般編 ……………	◆ 中学校編 ……………	◆ 小学校編 ……………
109	45	1

【表紙のイラスト】
瑞浪中学校3年
長岡 涼子さん

小学校編



✿ あいさつでニコニコ笑顔……………	1
✿ 家族っていいな……………	3
✿ 友だちっていいな……………	15
✿ クラブ・習い事……………	26
✿ 先生ありがとう……………	30
✿ 地域の人とのつながり……………	32
✿ うれしい出来事……………	37



あいさつでニコニコ笑顔

▽よくママとかわぞいをおさんぽします。わたしたちがいにもたくさんさんのひとたちがあるいているので、すれちがったときにあいさつをしてくれます。じぶんからあいさつをするのは、すこしはずかしいけど、あいさつをすると、とてもきもちがいいのでこれからもしたいです。 小1

▽この前、学校帰りに畑の草かりをしていたおばあさんに大きな声で「こんにちは」と言ったら草かり機を止めて「こんにちは」と言ってくれたのでどっちもえ顔になれてうれしかったです。 小5

▽私が学校へ行く途中、毎日「おはようございます」と言ってくれるおじいさんがいます。でも、私は言えませんでした。家に帰ったらお母さんから「ほかの人にしっかりあいさつした？」と聞かれました。でも私は「あいさつしてない」と答えました。そうしたらお母さんが「あいさつしたほうがいいよ」と言いました。私は「なんで？」と聞くと「あいさつしたら自分もその相手も気持ちよくなるからだよ」と教えてくれました。次の日からあいさつをしました。あいさつをしたら気持ちよくなりました。もっとあいさつをしたいです。 小5



小5

▽学校に行く途中にいるおばさんは、私たちにえがおであいさつしてくれ
ます。「おはよう」「いってらっしゃい」「今日は暑いね」「気をつけてね」など
と言ってくれます。さい初は、はずかしくて下をむいて小さな声で言ってい
ました。だけど、上級生の人たちがあいさつをしただけでみんなえがおでし
た。それを見て、あいさつってとても大事でまほうの言葉だなと思いました。
私も大きな声であいさつをするようになりました。これからもみんなのお手
本になるようなあいさつを続けていきたいです。

小4



小4

▽ぼくは、さい近、あいさつがうまくなりました。びょういんから帰るときいつも「ありがとう
ございました」と言っています。するとびょういんの人が「えらいね」と言ってくれます。ぼく
はそれがうれしいし、周りの人も、え顔になるので、あいさつっていいなと思いました。そして、
いろいろな人にあいさつができるようになりました。

小3

▽朝、学校に行くとき「おはよう」「いってらっしゃい」と、元気に言ってくれるおばさんがいます。
私は4月から分団の副班長なので、1年生の面どうを見たり、車に気をつけたり大変なこともあ
るけど、元気にあいさつしてもらえると、私も元気になります。今度は、私の方から元気な声で
あいさつしてみたいと思います。

小6

☆家族っていいな

▽かぞくでたこやきをたべました。わたしのたこやきにたこがふたつはいいっていました。わたしがよろこぶように、パパがたこをふたついれてくれました。うれしかったです。

小1

▽この前、学校の家庭科の宿題で「三色野菜いため」を作りました。私はふだんあまり料理をしないのでおいしくできるかなと不安でした。家族のみんなに食べてもらったら「おいしい」と笑顔で食べてくれてとてもうれしくなりました。お母さんも、私たちが「おいしい」と笑顔で食べたらこんなうれしいんだなと思いました。これからはたくさんお母さんの手伝いをしていきます。そしてお母さんの作ったご飯を笑顔で「おいしい」と言って食べたいです。

小6

▽ぼくは、前からきょう味をもって行きたいなと思う所がありました。毎日毎日その良さを伝えていました。そうしたら、家族みんながきょう味をもってくれて、ついに行くことになりました。下調べをいっぱいして、行き方や行きたい所が明確だったのでとても楽しめました。そして、旅の中ずっと「こんな楽しい旅にしてくれてありがとう」と言ってくれました。ぼくのきょう味があることにいっしょにきょう味をもってくれたことがうれしかったし「ありがとう」と言ってもらいうれしかったです。

小4

▽なつやすみにパパがおひるごはんをつくってくれたことがありました。「なにがたべたい？」ときかれたので、「オムライス」とこたえると、パパはいつしよけんめいつくってくれました。いつもはママがごはんをつくってくれるので、パパのつくったオムライスをはじめてたべました。わたしのためにがんばってつくってくれたので、いままでたべたオムライスのなかでいちばんおいしかったです。パパ、またつくってね。

小1

▽ぼくのパパは、しごとでかえってくるのがおそくて、ぼくがねてからかえってきます。でも、ぼくがおやすみの日に、ちよつとはやくかえってきて、たたかいごっこをしてくれます。ぼくは、やすみの日がたのしみです。

小1

▽ぼくのお父さんは「反省はしてもいいけど、後かいするぐらいならはじめからやめなさい」とよく言っていました。ぼくは、二つの言葉の意味はあまり変わらないのではないかと思っています。ある日、父から「二つの意味のちがいがわかる？」って聞かれました。ぼくは「同じ様な意味ではないか」と言いました。父は「それは少しちがうなあ」と言い、意味を教えてくださいました。「後かいは、かこのことで、反省は、未来につなぐことができるのだよ」と言って、かこのことは、ずっと心に残りいつまでも忘れられないが、反省は、今度気をつければ同じまちがいはしなくてすむということです。ぼくはこの言葉をいつも思っていて行動したいと思いました。

小4

▽父の趣味は養蜂で、一年前から蜂を飼っています。去年はあまりうまくいきませんでした。今年、ついにたくさんのはちみつがとれました。そして、それを家族みんなでいただきました。とてもおいしかったです。お父さんが一生けん命、蜂のお世話をしてくれたおかげなので、これからも感謝しながらいただきます。

小6

▽パパはママのごはんが美味しすぎていつも食べすぎておなかをこわします。幸せななやみだなあと思います。

小5

▽ぼくは、父さんの仕事のついでで平日は会えません。夏休みに弟といっしょにお父さんのしょく場見学に行きました。お父さんがどんな所で、どんな仕事をしているのかよくわかりました。お父さんは、いつも一人でお仕事をがんばってくれているので、ぼくもべん強をがんばりたいです。

小3

▽ひらがなプリントのまるつけのとき、ママがまいかいコメントをかいてくれます。ぼくが、じょうずにかけるようにがんばっているからだとおもいます。しゅくだいはたいへんだけど、ぼくもママもうれしいきもちになります。うれしいのメリーゴーランドです。

小1



▽夏休みに、お母さんは、毎日仕事です。朝、家を出る前にお弁当を作っておいてくれます。お昼になると電話がかかってくるので、お兄ちゃんと温めて食べます。お弁当は、なぜかふうのごはんより美味しく感じます。作ってくれる人の気持ちがかもっているからじゃないかなと思います。いつも朝早くから美味しいお弁当を作ってくれるお母さんに感謝しています。

小5

▽ぼくは、ようちえんのころプリンセスやすみっこぐらしがすきでした。お父さんやおばあちゃん「男の子なんだからそんなのやめなさい」とか「こっちのくるまのえがかいてあるやつにしなさい」とか言っていました。そのときはどうしてかわからなかったけど、お母さんは「だれにもめいわくかけてないんやで、すきなやつをえらばいい」と言って、すいとうもナフキンもしもコップもぜんぶかってくれてすごうれしかったです。小学生になってなんかはずかしくなって、もうお兄ちゃんのものをつかっているけど、今もかわいいものが大すきです。

小1

▽稲津に花火が上がる日、お母さんは泣きます。去年、花火が上がった日に、おじいちゃんが亡くなったからです。お母さんは、きつときちんと育ててくれたおじいちゃんのことを思い出しているんだと思います。いつか私に子どもが産まれてお母さんが笑って見れるまで、そばにいてあげたいです。

小5



小5

▽ぼくはアレルギーがあります。だからご飯の時は大変です。だけど、おかあさんたちは、ぼくや家族が不公平なようなみんなと同じ料理をよく作ってくれます。

小6

▽私には、小さいころからずっといっしょにいるくまのぬいぐるみがあります。そんなぬいぐるみのせなかにあながあいてしまいました。そして母が「直すね」と言ってぬいぐるみをだきあげようとなりました。私はそれをとめて「自分で直したい」と母に伝えました。そして「じゃあ教えるね」と言ってくれました。家庭科のことをいかして、がんばってひとつずつやっていきました。私は一時間くらいずつとそのことだけに集中してついに完成しました。ぬいぐるみは元どおりになりました。その日の夜、ぬいぐるみが「ありがとう」と言っている夢を見ました。ぬいぐるみには、命や感情があるのだなと思いました。

小5

▽わたしはいつもお母さんとおふろに入っています。おふろで、わたしが、お母さんのせなかをあらって、お母さんがわたしのせ中をあらいます。とっても気もちがいいし、しあわせな気分になります。お母さんも、「つかれがとれる」と言ってくれます。ずつつづけたいです。

小2



▽わたしは、デイズニーオンアイスに行ったのしかたけど、いちばんうれしかったのは、お母さんがつれて行ってくれたことです。お母さんは、しごとでいそがしいからなにもしてくれなかったけれど、デイズニーオンアイスに行ったときは、すぐたのしそうでした。おかあさんがわらうかおを見ると、わたしもうれしくなります。

小2

▽ぼくは、ことし、たなばたまつりでおどりました。いっしょうけんめいおどったので、おかあさんがおこづかいをくれました。そのおかねをつかって20本いりのはこアイスをかいました。それをかぞくみんなにわけました。なつだから、みんなげんきになりました。それをみて、ぼくもげんきになりました。

小1

▽わたしは、3年半つづけていることがあります。それは、ママのお母さんがねむっているおはかそうじです。月に一回おはかに行つて草ぬきをして、おはかの石をピカピカにして、そうじをしています。おはかには、わたしがえらんだきれいなお花とせんこうをたてて、手をあわせませす。お母さん（おばあちゃん）が「ありがとうね」と言つて、わたしたちを天国から、みまもつてくれてる気がします。これからみまもつとつづけていきたいです。

小3



小3

▽学校に行くのがいやだなと思った日は、お母さんが手をつないで分だんばしよまでいっしょに歩いてくれます。お母さんをつないだ手から、お母さんのパワーを分けてもらえる気がします。がんばれます。

小2

▽ぼくは、宿題や勉強があまり好きではありません。お母さんに「勉強しなさい。宿題したの?」と言われると、すぐにやるけれど、家庭で言われている勉強までは、やりたくありませんでした。ある日、お母さんに「なんで勉強をしなくちゃいけないの?」と聞きました。すると、お母さんが「それはね。しょうらい大人になったら仕事などで役にたつからだよ」と教えてくれました。それからぼくは、しょうらい人の役にたつためには、少しずつでもやろうとやる気になり、今ではほんの少しだけですが、やるようになりました。

小4



小4

▽ぼくは、いつもねるまえに、お父さんやお母さんにえ本をよんでもらいます。よる、お父さんがいない日がありました。お母さんは、あかちゃんのおせわをしていたので、え本をよんでもらうことができませんでした。ぼくは、いもうとにえ本をよんであげます。お母さんといもうとは、ぼくに「ありがとう」といってくれました。ぼくは、うれしいきもちになりました。

小1

▽わたしは、すぐにあきらめてしまいうくせがあります。何回かやってもできなかったら「あーあ、わたしできない」とあきらめてしまいます。そんな時、お母さんはかならず「こら、あきらめないの。あなたは、ぜったいできるから」と言います。お母さんと、何回も何回もあきらめずに取り組むと、苦手なわり算のひっ算も、ちゃんとできるようになりました。お母さんは「ほら、できたじゃん」とほめてくれます。できたらわたしもうれしいし、教えてくれたお母さんもうれしいんだと感じました。お母さん、わたしがあきらめようとしている時、はげましてくれて、何回もいっしょに取り組んでくれてありがとう。あきらめずにがんばると、とてもうれしい気持ちになれるね。

小4

▽近所の人からたくさんゼリーをもらいました。ぼくが「ゼリーが2こあまったからじゃんけんしよう」とお姉ちゃんと妹に言ったら、妹が負けてしまいました。ひとつは、ぼくがもらいました。でも、お姉ちゃんは、きつと負けてしまった妹がかわいそうだったからか、ゼリーをすぐに妹にあげていて、やさしい心を持っていてすごいと思いました。ぼくだったら気分によってすぐあげるときと、自分が食べてしまうことがあるので、すぐにあげたお姉ちゃんはずいと思えました。ぼくもお姉ちゃんみたいに、まけた人の気持ちを考えて、悲しそうだったらゼリーをゆずってあげたいです。

小3



小3

▽ぼくの兄は、ボランティアに参加せず、自主的に友だちを集めて、駅の周りのゴミ拾いをしました。拾い終わった時には、なんとダンボール約3こ半ぐらいありました。その後も、ゴミの分別などをしていました。自主的に、友だちとゴミ拾いをしていた兄をすごいなあと思ったし、ぼくも、友だちとかといっしょに、ゴミ拾いのボランティアに参加など、地域のためにすることをやりたいなあと思いました。

小5

▽ぼくのお兄ちゃんは、高校の野球部です。この間、遠征から帰ってくると見られない空のペットボトルを持っていました。遠征のバスの中に落ちていたそうです。人のゴミを持って帰ってくるなんて、お兄ちゃんがかっこよく思えました。ぼくもお兄ちゃんを見習いたいです。

小4

▽わたしには、6さいはなれたお姉ちゃんがいます。年がはなれているから、あまり遊んだりしません。夏休み、ラジオ体そうはお父さんで行っています。ある日、お父さんの仕事先かられんらくが来て仕事に行っていました。わたしは、だれとラジオ体そうに行こうかなやんでいると、クラブでいそがしいにお姉ちゃんがついてきてくれるといいました。すぐにしたくをして行きました。いつもは、お母さんと手をつなぐので、お姉ちゃんと手をつなぐことはないけれど、二人きりなのでお姉ちゃんが手をつないでくれました。うれしかったです。お姉ちゃんもお母さんみたいにお父さんより大きな手をしていました。新しい発見でした。

小3

▽ぼくには、おねえちゃんがいます。ねるとき、一人だとさみしいけれど、おねえちゃんとしやべりながらだとなのしいきもちでねむれます。たまに、うるさくてお母さんにおこられます。おねえちゃん、いつもありがとう。

小1

▽なつやすみに、おねえちゃんといっしょにしゅくだいをしました。おねえちゃんはいつも「ちゃんとやりなさい」とおこってきます。わたしは、いやなきもちになるけれど、わたしがこまらないうようにいつてくれているのだとおねえちゃんからきいたので、がんばってしゅくだいをしました。おねえちゃんが、まるつけをしてくれて、まるがいっぱいあつたとき、さいごにくれるはなまるがうれしくて、またがんばろうというきもちになりました。

小1

▽夏休み、弟と公園に行ったとき、弟が「一緒に遊ぼう」と言ったので、すべり台やブランコで遊びました。弟は、すべり台で「先にすべっていいよ」と言ってくれたり、ブランコでも他の友だちとこうたいでのっついて、ひとつあいたとき「先なのっいいよ」と言ってくれました。弟も早く遊びたいと思うのに、ゆずってくれてうれしかったです。私は「ありがとう、先なのっいいよ」と弟に声をかけました。弟のやさしい気持ちがとてもうれしかったです。

小4



▽ぼくは、ぶんだんで学校へいくのがにがてです。いくとちゆうにトカゲを見つれたり、ゆっく
りあるいていきたいからです。いえでそのはなしをしたら、おばあちゃんがいつしよにあるいて
学校までおくつてくれるようになりました。かえりにむかえにきてくれるので、いつしよにトカ
ゲをさがすことができます。ありがとう。おばあちゃん。

小1

▽ぼくには日吉におばあちゃんがいます。おばあちゃんは、何でも手作りです。どんなにいそが
しくてもおいしい手作りのごはんを食べさせてくれます。「何で手作りなの？」と聞くと「買う
のはかんたんだけど、作るとあいじようがこもってるでしょ」と言いました。服も、ぜんぶ手作
りです。ぼくの学校にもつていくエプロンでも、ぼくと妹のじんべいも、ぼくのイスポケットも
作ってくれます。おばあちゃん。いつも手作りの物をありがとう。

小3

▽わたしのおじいちゃんは、認知症で亡くなりました。73才でした。言葉をわすれてしまい、食
べることも飲むこともできなくなりました。おじいちゃんは、わたしに命を大切にすることを教
えてくれました。わたしの知っているおじいちゃんは、この世にいないけれど、わたしの心の中
には元気な時のおじいちゃんがあります。悲しいけれど、大切なことを教えてくれてありがとうと
いう気持ちわたしの心の中にあるのです。

小5

▽ぼくのおじいちゃんは認知症で、時々、よくわからないことを言ったり今までできていたことができなくなっていました。ぼくは、どうしてもおこってしまうことがあるけれど、おじいちゃんはいつも「ごめんな。おじいちゃん忘れちゃって」とあやまります。そんなおじいちゃんは、毎朝ぼくたちが学校に行く時間に外のそうじをして待っていてくれます。必ずえがおで「もう行くのか？ 気をつけてな」と言ってくれます。お兄ちゃんは、大きい声で「いつてきます」とハイタッチしますが、ぼくは、はずかしくて小さい声でしか言えません。いつかは、ぼくも大きな声で「いつてきます」が言えるようになるから、おじいちゃんいつまでも元気でいてね。

小2

▽わたしは、お母さんが仕事の時は、よくおばあちゃん家にとまります。朝ごはんにたまごやきを作りました。そのほかにサラダとバナナパンをじゅんびして三人分ワンプレートにしました。時間がかかったけどみんなまっけていってくれて「おいしい」と言ってくれました。ごはんのじゅんびをするたいへんさが分かりました。おかあさんいつもありがとうございます。

小3

▽ぼくが、学校が休みの時でも、お父さんとお母さんは、お仕事に行く時があります。その時は、ひいおばあちゃんとすごしています。お昼ごはんも作ってくれて、いつもそうめんやスパゲッティなどぼくたちの好きな物を作ってくれます。ひいおばあちゃんに「なんで？」と聞くと「おいしいように食べてくれるから」と言ってくれました。ぼくはうれい気持ちになりました。

小4

☆友だちっていいな

▽ぼくは、4月から小学生になりました。さいしよのころは、ちゃんと小学校にいけるかふあんでした。だけど、小学校のおにいちゃんやおねえちゃんがやさしくしてくれたので、まいにちたのしく学校にかよえています。ぼくも、らいねん2年生になったら、あたらしい1年生の子たちにやさしくしてあげたいです。

小1

▽とう校するとき、ぶんだんのおねえさんが、ぼくがつかれていると、いつもせなかをおしてくれます。さいごのさかみちがたいへんなので、たすけてくれてうれしいです。

小1

▽わたしのとなりのいえには中学生のおねえちゃんがいます。あさ、学校にいくじかんがおなじなので、ぶんだんばしよまでいってくれます。おねえちゃんといっしょにいける日はうれしいです。たくさんおはなしをしてくれて手もつないでくれるおねえちゃんがわたしは大好きです。わたしも、おねえちゃんみたいにやさしくなりたいです。

小1



小1



小1

▽私は、分団の副班長をしています。一学期最後の日、とても暑い中歩いていると、荷物が重いのかおかれてしまう子がいました。とても大変そうに見えたので、荷物を少し持ってあげようと思いました。そして休けいの時「荷物持とうか？」と声をかけると「できたら持つてほしい」と言われました。いつもえんりよがちな子だったので、たよってもらえてとてもうれしく感じました。これからも分団の子にたよってもらえる副班長を目指してがんばりたいと思いました。 **小6**

▽ぼくが、しゅうこうじかんにちこくしそうになったとき、きんじよの5年生のおねえさんが「わたしがカバンをもってあげるから、はしるよ」といって、さつとカバンをもってくれました。こまっているときにたよってくれて、やさしいと思いました。 **小1**

▽わたしは、とう校中にわすれものをしたことにきがつきました。一人でとりにいこうかとおもっていたら、ともだちが「いっしょにいこうか」といってくれました。ちよつとあんしんしたし、うれしかったです。 **小1**

▽お母さんの仕事のつこうでじどうかんへ遊びに行きました。知らない子ばかりでふあんでした。一日、ドッチボールをしたり、たつきゆうをして遊びました。学校のちがう子、学年のちがう子、たくさん友だちができました。今ではぼくが一番大すきなところです。 **小3**

▽私のお姉ちゃんが学校を休んだ日の帰り道、私は、お姉ちゃんがいな
いから一人でした。でも、分団のふくはん長の人が、とちゅうからつい
てきてくれて、いっしょに帰れたのでとても安心して帰れました。ふく
はん長の人にかんしゃしたいです。

小3



小3

▽通学路での話です。私が友だちといっしょに帰っていると、竹やぶの
中にけんばんハーモニカが落ちていました。それには名前が書いてあり
ました。私は、とどけてあげようかまよいました。なんでそんなにまよおうかと言うと、その持ち
主の家はとつてもきつい坂の上にあるのです。私はその子の家まで行きました。家までつくど私
はハアハア言っていました。「これ落ちてたよ」と言ってわたすとニコニコで「ありがとう」と言っ
てくれました。私は心の底からとどけてよかったなと思いました。

小5

▽友だちと遊んでいる時に、お腹がいたくなりました。でも、友だちに悪いなと思って、無理を
していましたが、勇気をふりしぼって、「少し休んでもいいかな？」と言いました。すると友だ
ちは笑顔で「いいよ」と言ってくれました。ぼくは、その笑顔にほっとしました。友だちのやさ
しい気持ちと、人を思いやる心を感じてすごくうれしかったです。ぼくも友だちがこまっている
時には、やさしい気持ちで接してあげたいなと思います。

小6

▽ぼくが、コロナで、えらくて2かいでねていた時、お母さんが「手紙がきたよ」と言いました。その中には、友だちからのメッセージで「○○くん、早く学校に来てね」と書いてありました。ぼくは、そのメッセージで心が晴れて、早く学校に行きたいなと思いました。

小5

▽ぼくが転校してきた時、○○さんが「いっしょに行こう」と自分から言ってくれました。すてきだと思いました。その後、教室へ入ると、みんなが大きなはくしゅをしてくれました。次の日の休み時間、まだ友だちになっていないのに「いっしょに行こう」と言ってくれました。ぼくのクラスは、みんなやさしくてよかったです。

小3

▽私は、6月に引っ越しをしました。新分団での初登校の日の朝、お母さんに「人数の多い分団だからにぎやかで楽しいと思うよ」と言われました。私は、ワクワクとドキドキが入り混じった気持ちで玄関を出ました。途中で合流した1年生が「おはよう」と元気がかわいいあいさつをしてくれたのできんちようがほぐれました。集合場所から学校へ出発する時に、6年生が「ここにならんで」と優しく声をかけてくれました。そのしゅん間、私のきんちようと不安はまったくなくなりました。今では、出発までのほんの少しの時間に分団の子たちとお話するのが楽しいです。

小5



小5

▽学校で、きもだめしをやりました。おばけがこわくてドキドキしていました。きつねのおめんをかぶったおばけがこわくてなきました。5年生と6年生のおにいさんとおねえさんが「だいじょうぶだよ。こわくないよ」といつてくれて、ぎゅっとしてくれたりあたまもなでてくれました。やさしくしてくれてうれしかったです。おにいさん、おねえさんありがとう。

小1

▽ぼくは、むしが大すきです。いちばんすきなのは、カブトムシとクワガタです。なかよしのともだちと見せあつこをしたり、たたかわせたりしてあそびます。ぼくは、ともだちに「いれて」というのはずかしいので、なかまに入れません。でも、ともだちがむしであそんでいたら「いれて」といえます。だから、ぼくはむしのおかげでともだちとあそべます。

小1

▽誕生日の当日、ぼくはいつもどおり登校しました。すると下駄箱で友だちに「ちよっと待ってて」と言われて何だろうと思ひながら待っていました。「いいよ」と言われて教室に入った時、1枚の寄せ書きをもらいました。そこには、クラスのみんなからぼくの好きなカエルのイラストと「誕生日おめでとう」のメッセージが書いてありました。想像もしていなかったサプライズにびっくりして、とても嬉しかったです。ぼくもこれからは、人が喜んでくれることをいっぱいやっていきたいです、思い出に残る誕生日になりました。

小6

▽夏休みに友だちが私のためにおたんじょうび会を開いてくれました。私は、友だちの家でたんじょうび会をすることを知らなかったのでサプライズでやってくれました。友だちの家でたんじょうび会をするのは、初めてで、とてもうれしかったです。友だちは、たんじょうびケーキではなく、私の大好きなシュークリームを用意してくれ、シュークリームの上に自分の名前とたんじょうびがプリントしてある紙をのせてくれました。細かい所まで気づかってくれる友だちがいて、自分は幸せだと思いました。小6



小6

▽入いんしていたのは、8ヶ月前のことです。びょうきにかかって、いたいし、つらい日がつづきました。でも、たいいんできる日をクラスのみんなが楽しみにしてくれました。しかも、たいいんして教室に入ると、全いんがやさしく出むかえてくれました。わたしは、うれしいなと思いました。みんなにあいさつするのがひさしぶりで、楽しいなど感じました。小3

▽私が、体調をくずし、復帰した時の話です。その日は、運動会の練習で応えん練習がありました。でも、私は、のどがいたくてなかなか声が出せませんでした。すると、同じ団の友だちが「無理しなくていいよ」とやさしく声をかけてくれました。私は、とても心が温かくなり、同じように、友だちなど人の助けになることを、やりたいなと思いました。小6

▽私は、運動会の団リーダーになりました。なので、応えん練習では、団員の前に立ち、応えんのやり方を教えるという役割があります。1年生の子が応えんのふりつけがよくわかっていなかった時、私は、その子の近くへ行き、できるまで教えました。そして、できるようになったのでみんなで一回通して終わりにしました。すると、その1年生の子が「最後まで教えてくれてありがとう」と言ってくれました、また、6年生の友だちが「いつもがんばっていてスゴイね」と言ってくれました。私は、団リーダーを一生けん命やっていたので、とてもうれいなと感じました。

小6

▽私は、この夏休み、学校のサマースクールに友だちにさそわれて行ってみました。クラスも夜とまるりようも友だちと別れてしまったので「あーあ、全部別れちゃった。もう楽しめないかな。つまらないな」と弱音をはきました。りようにつき、にもつのせいりをしていると、となりのへやの子が「私は〇〇っていいいます。よかったら友だちになりませんか？」と言ってくれました。私は、とてもうれしくて「私の名前は△△です。よろしくね」と言って友だちになりました。その子は、とても明るくて友だち思いました。いっしょにおふろに入ったりたくさん話をしました。最後は「手紙でやりとりしようね」と言い帰りました。私は、友だちを作るには、自分から話し、思いやりを持ち出合うことが大切だと学びました。これからも、友だちとやりとりして知ってきたいです。

小6

▽わたしは、なわとびがあまりうまくありません。それで、テレビの「なわとびがうまくなるじゅもん」というばん組を見ました。そのばん組で知ったじゅもんは「ぐるびよん」でした。つきの日、友だちに「ぐるびよん」と言ってもらいながらとんでみました。そしたら、とべました。友だちに「ありがとう」と言うと「いいんだよ。だつて友だちでしょ」と言ってくれました。友だちには、今も「ありがとう」と思っています。

小2



小2

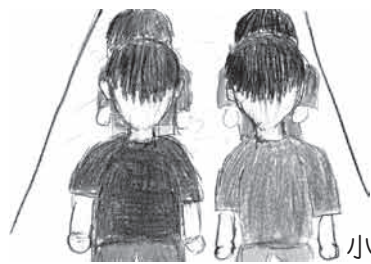
▽私は、最近できるようになったことがあります。それは「一輪車」です。どうやってできるよ
うになったかというと、友達のKちゃんとMちゃんとSちゃんのアドバイスがあつたからです。
最初やり始めたころは、こわくてなかなかうまく乗れませんでした。でも友だちが「目標の所を
見てやるといいよ」と教えてくれました。そうしたら数日後には、目標の所まで乗れるようにな
りました。友だちの言葉がなかったらあきらめてしまったかもしれない。「KちゃんとMちゃ
んとSちゃん、ありがとう」

小5

▽学校の授業で縄文土器を作りました。作り終えてすっきりした直後、こわれて作り直しになり
ました。とても悲しかったけれど、みんなが「かんばれ」と言ってくれたので作れました。次に作っ
たのはこわれなかったから、みんなの応えんのおかげだと思いました。ありがとう。

小6

▽ぼくは公民館の楽器クラブをやっています。ぼくはキーボードと歌を歌う係の人です。今年の夏は、久しぶりに夏祭りがありました。そこで、ぼくたちは、夏祭りに曲をひくことになりました。夏祭りの日、ぼくは、いろいろな友だちと来ていました。そして、ぼくは、まず自分のチームの子と曲をひき、その後、ぼくだけ大きい子ともいっしょに曲をひきました。ぼくは、曲をえんそうしていたので、何も屋台のものなどを買っていないせんでした。ですがその時、ある友だちが「〇〇くん、何も買ってないからいっしょに買おう」と言ってくれたのです。友だちは、すでに自分の買い物はおわっていたけど、ぼくのためだけに屋台にいっしょにならんでくれたのがうれしかったです。これからも、その友だちとなかよくしたいです。



小5

▽ぼくは、友だちとあそんでいたときにけんかをしました。おたがいにあやまらずにずーっとだまっていました。だまっていたもたのしくなかつたです。ぼくがあやまろうかなと思っていたら、その友だちがぼくがつくったものを「すごいね」といってほめてくれました。そのあと「きつきはごめんね」とあやまってくれました。けんかしているのに、あいてのことをほめてくれて、さきにあやまってくれるなんてすごいと思いました。ぼくも、すなおに「ごめんね」と言えました。つきは、もっとはやくあやまれるようになりたいです。

小2

▽4年生になって初めて委員会がありました。ぼくは、恥ずかしくてポロポロな言葉でじこしよ
うかいをしてしまいました。でも、5・6年の人たちから、元気をもらえる大きなはくしゅをも
らえました。ぼくも、大きくなったら、元気がない子を元気にする「にこにこ言葉」「にこにこ
行動」をできるようにがんばりたいです。

小4

▽私は、初めて会った人と話すことがとても苦手です。主張大会の練習の日、
だれとも話すことができませんでした。でも、二回目の練習では、話しか
けてくれてとても仲良くなりました。そして、本番の時は、他校の子とた
くさん話すことが出来ました。他校の子と話せてとてもうれしかったです。

小6



小6

▽ぼくの学校にブラジル人の同級生の子が来ました。自分は、ポルトガル
語がわからないので、その子にあまり話したりできませんでした。でも、
同じクラスなので少しはしゃべってみようと思いいンターネットで調べました。「おはよう」「あ
りがとう」などを覚えて、その子にポルトガル語で「おはよう」と言ってみました。そしたらニ
ニコした顔で「おはよう」と返してくれました。まだ覚えきれていないのがんばってポルト
ガル語を話してみたいです。

小6

▽わたしは、今年の4月に、とき小学校にてんこうしてきました。それまでは、ベトナムのハノイ日本人学校にかよっていたので、きゅうしよくなどがはじめてでしんばいでした。でも、先生やクラスのお友だちがやさしく教えてくれました。今は、学校生かつを楽しんでいます。これからは、こまっている子がいたらたすけてあげたいです。

小2

▽友だちの家に行った時、友だちのお母さんが仕事で「ぼくがいると安心して仕事に行ける」と言ってくれてうれしかったです。

小5

▽私には、とても仲の良い友だちがいます。その友だちは、私が困っているとすぐにかけて助けてくれます。休み時間は、いつも教室から出て「今日何やる？」と話しながら外へ行きます。私は、小学校に入学した時、周りの友だちに話しかけるのが苦手でした。外で遊ぶのは好きだったけど話しかけることができなかったのも、一人で輪車やブランコなどで遊んでいました。そんな時、その友だちが私に話しかけてくれました。それから私は、一人で遊んでいる子や何か困っているような子に話しかけることをいしきして遊ぶことにしました。すると、校内に困っている子が少なくなりました。その友だちには何でもない日でも「ありがとう」と伝えるようにしています。



小4

小4

☆クラブ・習い事

▽私はソフトボールのクラブに入っています。いろいろな小学校から集った仲間が14人います。私は、うまくなるために一生けんめいに練習していますが、どうしてもうまくいかなかったり、できなかったりすると、泣いてしまうことがあります。そんな時、いつも仲間がそばに来て、かたをたたいて、はげましてくれます。私は、その仲間のやさしさに何度も助けられました。そんな仲間は大切です。この仲間といっしょに楽しみ、おちこんだり、つらそうなときは、声をかけてはげまします。来年は6年生で1年生や3年生がおちこんだりしていたら、そばにかけよって「どうしたの?」と聞きたいです。

小5

▽私は、野球をやっています。私のチームは、岐阜県の県大会という大きな大会に出ることになりました。その大会は開会式があります。そこで私は、チーム名の書いてあるプラカードを持って先頭を進行しました。先頭だと足の左右をまちがえると後ろもまちがえてしまうなどのプレッシャーもあって緊張していました。そして、コーチには「足を高く上げて」と言われました。本番が終わってもどつてくると、コーチとお父さんに「足がとてもあがっていたよ」とほめられました。意識したのでとてもうれしかったです。

小6

▽ぼくは、野球をやっています。この夏、県大会に出場しました。小学校最後の公式戦でした。相手は強いチームで「勝てるかな」と不安になりました。けれど、スタンドにいた先輩や下級生、保護者の方たちが応援歌を歌ってくれました。ぼくは、初めての経験で、とても勇気が出ました。試合には負けてしまったけど、悔いのない試合になりました。「がんばれ」という一言の言葉でも相手に勇気を送れるので、友だちや兄弟に応援の言葉を送りたいです。

小6

▽私は、この前の陸上大会で800mを走りました。ラストの一周は、会場がにぎわっていました。私は、きつかったけれど、いっしょけんめい走っていると、同じ陸上クラブのたくさんの人が「がんばれ」と言ってくれました。その一言で私は、力がこみ上げてきて、そのいきおいでゴールできました。タイムは、新記録でとてもほめてもらえました。私は、今、私をおうえんしてくれた人、見てくれた人にかんしゃでいっぱいです。ありがとうございます。

小5

▽ぼくの通っている道場に、ウクライナのせんしゅが来てくれました。しゅぎょうのために日本に来ているのに、ぼくたち小学生のけいこのあいてをいっばいしてくれました。せんしゅは、ぼくたちにウクライナのじょうきょうなどを話してくれました。その中で「大へんなじょうきょうになっても、じぶんのことをたすけてくれる人に、かんしゃの心もちつづけよう」とつたえてくれました。

小2

▽ぼくは、空手をならっています。このまえはじめて大会がありました。大きい体いくかんで、ぼくは、どこに行ったらいいのか分かりませんでした。そのとき、6年生の子が、場所やつきになにをやるのかをやさしく教えてくれました。ぼくは、とてもふあんだったので、すごくうれしかったです。ぼくも、もうすこし大きくなったら、下の子に同じようにやさしく教えてあげられる人になりたいです。

小2



▽ぼくは、妹とスイミングへ行っています。泳いだあとは、友だちとおかし交かんをするのが楽しみです。この間、スイミングを二日間休んでしまいました。そしたら、友だちが妹にぼくのおかしをわたしてくれました。スイミングに行けなかったのは、さんねんだったけれど、休みでもぼくのことをわすれずおかしをくれてうれしかったです。友だちは大切にしたいと思いました。またスイミングをがんばりたいです。

小3

▽わたしは、プールをならっています。テストがありました。一回落ちたテストなので、あまりじしんがありませんでした。そんなとき、コーチが「がんばれ。○○さんならできる」と、はげましてくれました。コーチありがとう。やる気だよ。

小4



小4

▽私は、ピアノを習っています。その日は、ピアノの友だちとひき合いをしました。最初は、私と友だちできんちようしていました。先生に「時間をもらってるんだから楽しい時間にしようね」と言われました。それから私たちは、笑顔でひき合いをすることができました。終わった後は、楽しい気持ちでした。

小5

▽私は、5年間ダンスを習っています。この前、暑い日なのにダンスのイベントをわざわざ友だちが見に来てくれました。ダンスをおどった次の日に、友だちが表彰状と手紙をくれました。私は、ダンスをやめたいと思ったことがあるけど、表彰状に「よくがんばりました」と書いてあり、手紙には「ダンスすごかったよ」と書かれていたので、ダンスをやっていてよかったと思ったし、はげまされました。

小5



小3

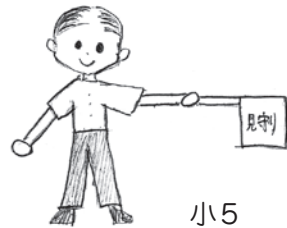
▽ぼくが試合中に相手のシュートがおもいつきり溝おちに当たりました。ぼくは、いたくても必死に守りぬこうとしたけれど、守りきれず、うずくまりました。おきあがってもピッチの中にはありません。仲間がゴールを守ってくれました。みんな「大丈夫？」と言い、手をさしのべてくれました。その後、一点を取って1-0で勝てました。ぼくは、チーム全体の思いやりがあるからこそチームなんだと思いました。

小6

☆先生ありがとう

▽私の通学路に横たん歩道があります。その所にいつも、中学校の校長先生が立ってくれています。車が多く通っているのでとても安心します。来年は自分の班の班長になるし、その来年も班長が代わるので、これからもずっと見守りをつづけてほしいと思います。

小5



小5

▽ぼくは、ずっと宿題を早く終わらせたくて、てきとうに字を書いて早く終わらせていました。ある日、先生に「いつも字がうまいですね」と言われました。自分は、てきとうに書いているのになんで「うまい」と言うんだろうと不思議に思いました。その時、ぼくは、先生がいろんな人に「うまいよ」と言っているのを聞きました。先生は、ぼくたちをほめて成長させようとしてくれているんだなと思いました。なので、これから先生のきたいに込えられるようにもつとていねいに字を書こうと思いました。

小5

▽ぼくは、にがてなたべものがあります。にがてなものがあるとたべられないので、こまっています。ある日、がくどうの先生が「にがてなものをさきにたべるといいよ」と言いました。まねをしてみたら、にがてなものをたべられるようになりました。

小1

▽ぼくは、毎日学童に行っています。学童では、学校の宿題をしたり、みんなで遊んだりしています。もし学童がなかったら、一人で家にはいないといけないのでさみしいです。だから、学童があつてうれしいです。それに、学童の先生は、やさしいし、ぼくたちのためにいろいろと楽しいことを考えたり、いっしょに遊んでくれたりするので感しゃしています。これからも、先生や学童の子たちと楽しくすごしたいです。

小4

▽6月にあつたS先生のおわかれ会で、みんなで歌と他学年にも書いてもらったメッセージをプレゼントしました。私は、泣いてしまって、となりの男の子が心配してくれました。S先生は、出産で一度いなくなつて、また戻ってくるけど、そのころ、私たちは、中学生になつてしまいます。S先生がいつまでも元気でいてくれたらうれしいです。

小5

▽私が2年生の3学きしゅうぎよう式の時に、1年生の時にお世話になつたN先生が別の中学校へ行くと聞いて、とても悲しくなりました。しかも、2年生の時にいつもいっしょに音楽をやつていたW先生が愛知県に行くとなると、ぐつとこらえてきたなみだがあふれてきてとまりませんでした。さい後に、N先生とW先生に会つた時、二人は私のことをぎゅーつとだきしめてくれました。

小3



小3

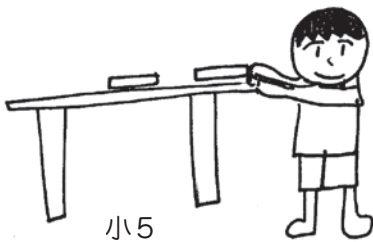
☆地域の人のつながり

▽わたしのすんでいるちいきでは、はたけをやっている人がおおいです。なつになると、きゅうりやトマトがいっぱいあります。いっぱいになると、おじいちゃんやおばあちゃんが「トマトいる？なすはある？」といえまでききにきてくれます。わたしが「いる」というと、えがおでたくさんいやさいをくれます。とてもうれしいです。人にわけてすごいな。やさしいな。いつもありがとう。

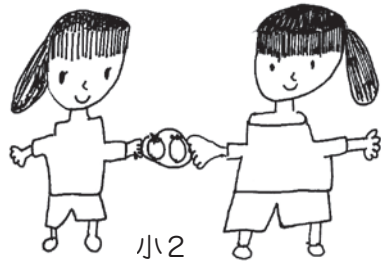
小2

▽ぼくのすんでいる地いきでは、おじいちゃんやおばあちゃんがたくさん住んでいます。子ども会の行事で、おばあちゃんたちからすみ作りをいっしょにしました。おばあちゃんたちが、作り方をおしえてくれたり、からすみをむしてくれました。おばあちゃんたちは、やることごとつてもはやくて物知りでした。ちかくに住んでいるおじいちゃん、おばあちゃんが多いから、もつともつといろいろなことを教えてもらいたいな。いつもぼくたちを見守ってくれてありがとう。

小5



小5



小2

▽夏休みの自由けんきゆうで、ふるさとカルタにのっている場所に行つて来ました。場所がわからない時やこまつた時に、地いきの人が教えてくれました。やっている仕事をと中でやめて、わざわざその場所までつれて行つてくれたり、「そこまで車で行くのは大へんだから、ここに車をとめて歩いて行くといいよ」と、おじさんの家に車をとめさせてくれました。地いきの人にたくさんやさしく教えてもらいました。とつてもうれしかったです。

小1

▽ぼくが、がつこうからかえるときにたまにあうおじさんがいます。そのおじさんのことをぼくはだれかしらないけど、あえば「おかえり」とこえをかけてくれます。ぼくのいえは、そのおじさんのいえからまだまだとおいので、おじさんの「おかえり」で「よし、もうすこしがんばつてあるこう」とおもいながらかえることができます。おじさん、いつも「おかえり」をありがとうございます。

小1

▽私がとう校するときに、ボランテアの方が横たん歩道にいます。ボランテアの方は「おはよう」とあいさつをしてくれます。そして、青信号がチカチカすると「ストップ」と言ってくれました。ボランテアの方は、あいさつしてくれるだけではなくて、私たちを守ってくれていることがわかりました。

小4



▽ぼくの分団集場所には、いつもみんなをむかえてくれるおばあさんがいます。おばあさんは、ぼくたちが正門に入るまで、橋のむこうから見送ってくれます。分団長のぼくが、みんなの人数を確認する時は、いっしょにかぞえてくれて、みんなに声かけもしてくれます。だから、とっても安心です。たまに野菜もくれます。雨の日は、ガレージの中が集場所になり、風の強い日も、そこで集まるまでまたせてくれます。その家には、白い犬がいて、二階のベランダからみんなを見守ってくれます。毎日安心してかよえます。心の中で「ありがとうございます」と伝えたいです。小5

▽私が、朝登校していた時のことです。はん長の私と副はん長の5年生の子がはたをひろげると、交通安全協会の方々がはたを持って横断歩道の所で立っていました。交通安全協会の方々は、首にタオルをかけて、私たちのために暑い中も見守ってくれているんだなととても感謝しました。私と5年生の子ではたを持ち、分団の子を守ったり助けたりしなければいけないせきにんを感じました。暑い中もがんばっている人たちに感謝の気持ちをこめて「ありがとうございます」と言いたいです。

小6



小6

▽私の家のご近所さんが犬をかっています。その犬は眼があまり見えません。ある日、犬がどこかに行って困っていました。犬は、車が通る道路で立っていました。犬が立っていた道路に車の音がしてる気がしたので、見てみました。そこにトラックが来てあぶなかつたので、いそいで、犬の後ろにかけつけました。ギリギリトラックがくる前に犬を助けることができました。それから、それを見ていたご近所さんがお礼を言ってくさいました。人助けをした後は、とても気持ちよかつたです。

小5

▽私の家の近所には、大きな畑があります。その持ち主の方が私たちに畑を貸してくださり、野菜を作らせてもらっています。苗や種、道具なども用意してくださるので、家になくても作ることができます。そのおかげで私の家では、新せんな野菜を食べることができて、とても感謝しています。小6

▽わたしが学校から帰ってきたら、家にまだ、お母さんがいませんでした。かぎを持っていなかったのどうしようとかまっていたら、前にすむおばあちゃんが、気づいてくれて「うちで待ってなよ」と声をかけてくれました。大きなプリンを食べさせてくれました。おいしかったし、うれしかったです。

小3



小3

▽学校で、ちいきの人とのこうりゆう会をしました。あんぜんなのこぎりのつかいかたをおしえてくれました。わかりやすくしらないことをおしえてくれてうれしかったです。みんなにも、おしえてあげたいと思いました。

小2

▽ぼくの町のすてきなHさんについて書きます。Hさんは、いつも町をきれいにしてくれています。ぼくが、トレーニングで走っていると、Hさんをよく見かけます。Hさんは、暑い日も寒い日も、草を取ったり花を植えたりしてくれています。トレーニング中は、Hさんがやさしく声をかけてくれます。Hさんがいない時は、Hさんが育てた花が応援してくれる気がしてがんばれます。Hさん、いつもありがとうございます。

小6

▽私は、休日に転んでケガをしてしまいました。一緒に遊んでいた友だちが、ぼんそうこうをはつてくれて「泣かなくてえらいね」と言ってくれてうれしかったです。ちょうどその時、近くのマシオンに住んでいるおじさんが帰って来て「これいる？」とポケットティッシュを差し出してくれて、またまたうれしくなり、もらわずにはいられないと思って「ありがとうございます」と言ってポケットティッシュを受け取りました。自分の町には、こんなにいい人がいるんだと思ってとてもうれしくなりました。

小4

おうれしい出来事

▽ぼくは、今年の夏休みに富士山に登りました。しかし、と中で高山病になってしまい新7合目の山小屋で休むことになりました。ちよう上を目指したお母さんとお兄ちゃんをまつ間、ぼくはひまでひまでしかたありませんでした。その時、山小屋のお兄さんが声をかけてくれました。ぼくがたいくつしないように遊び方を教えてくれました。ぼくは、教えてもらった遊びをすることのでたいくつせずにまつことができました。お兄さんにかんしゃの気持ちでいっぱいです。

小4

▽私は、浜名湖のサーブスエリアにスリッパをかた方だけ落としてしまいました。とても気に入っていたので「はあ、もうはけないかな」と思っていました。すると、お母さんがサーブスエリアの人に電話をしてくださいました。サーブスエリアのコンシェルジュの人が「落とし物でとどくはずですが…」と言っていました。コンシェルジュの人は「さがします」と言っていてさがしてくれて30分ぐらいたってから「ありました」という



小4

電話が来ました。その時は「えっ本当に！わざわざさがしてくれて見つけてくれたんだ」と感じやしました。スリッパは送ってくれて、今もスリッパをはいています。コンシェルジュの人に敬礼の手紙を書きました。いつかコンシェルジュの人に会ってお礼を言いたいです。

小4

▽私は、夏休みに家族と旅行に行きました。旅行の帰りに水族館によりました。イルカショーやペンギンにえさをあげたりして楽しかった後、トイレに行つて、おみやげやさんに行きました。私は、そこでさつきまで持っていたサイフがないことに気がつきました。「トイレだ」と思つて行つてみましたが、サイフはありませんでした。「どうしよう」と思いました。そのサイフには、3千円もの大金が入っていたので、とてもショックでした、そして私は、どうせないだろうと思いましたが、サービスカウンターに行つてみました。そしたら、私のサイフがありました。今でも、サイフを見つけて持つてきてくれるやさしい人がいると思うと、とてもうれしかったです。その人に「ありがとうございます」と言いたくなりました。

小5

▽ぼくは、習い事に行く時、いつも電車を利用します。この前、電車の中にお弁当箱を忘れてしまい、終点の中津川駅まで取りに行けなかったので、着払いでお弁当箱を家に送つてもらうことになりました。置き忘れていたお弁当箱が三日ぶりに家に届き、真夏だし、すごく臭いだろうなとおそるおそるふたを開けてみると、きれいに洗つてあつてすごくびっくりました。送つてくれただけでもありがたいのに、中まできれいにして下さつて、駅関係者の方たちに感謝の気持ちでいっぱいになりました。本当にありがとうございます。

小6



小6

▽夏休みにゆう園ちに行ったときのことです。ぼく、おかあさん、おじいちゃん、おとうとと、ジェットコースターのれつにならんでいました。じゅんぼんがきましたが、のこりは2せきで、ぼくたち四人は分かれてしまうことになりました。そうしたら、さきにつけていたおねえさん二人が「わたしたちは後でいいので先にのつてください」と、ぼくたちにせきをゆずってくださいました。おかげで、四人いっしょにジェットコースターをたのしむことができました。ぼくも、そんなやさしい人になりたいです。

小2

▽この前、おじいちゃんのおきやくさんが四国からきました。前にきたときは、6年前だったそうです。そのとき、わたしは、小さくておぼえてないけれど、おきやくさんは、わたしのことをおぼえていて、小さいころのお話をしてくれました。なんだかわたしのしらないわたしのことをおしえてくれて、とてもうれしかったです。

小2

▽休みの日に、ほしいものがあつたので、コンビニへ買いに行きました。でも、さがしてもほしかつたものはありませんでした。かなしい気持ちで車に乗ろうとしたら、店員さんが、わざわざちゆう車場まできて「もしかして、これさがしていますか？ありますよ」と声をかけてくれました。とてもうれしかったです。ぼくも店員さんみたいな対応ができるようになりたいです。

小4



小4

▽家族で養老のたきへ行った時、帰りの道が、すごくせまく、車二台はギリギリで、大きな車ですれちがうと、落ちちやいそうでなかなか進めませんでした。そんな時、坂から、男の人が車一台一台に声をかけ、ゆうどうしていました。じゅうたいもなく、車がスムーズに通れるようになりました。自分だけではなく、みんなのことまで考えてゆうどうしている姿が、とてもステキでした。私はただ見ているだけだったので、勇気があつてすごかったなと思いました。男の人たちも、車の中の人もみんな笑顔でした。

小5



小5

▽僕は、いとこと川へ遊びに行きました。とっても水がすき通っていてきれいな川でした。周りには、バーベキューをしていてにぎやかでした。たきを見に行くと、人気がない所へ行くと、いっぱいゴミが落ちていました。それを見て僕は「みんながルールを守ってゴミを持ち帰っているのに、その人ただけが守れていないなんておかしい」と悲しい気持ちになってしまいました。なので、ゴミぶくろを持ってゴミ拾いをしました。大きなゴミぶくろいっぱいになるぐらいゴミがありました。それを受け付けにあげずに、行くと「ありがとう」と言われて僕はうれしかったです。お礼にソフトクリームをもらいました。気持ちがあすつきりました。

小6



小6

▽僕は、家族と出かけた時、大変そうに工事をしていた人たちがいました。そこで「すごく重いものを持ちたりクレーン車をそうさしてるんだなあ」と考えていました。その人たちの顔を見ると、全員あせをかいしてしんけんにとり組んでいました。ぼくは、おうえんをしたくなって、大きな声で「工事がんばれ」と言ってしまった。すると、その人たちが、こつちを見て、一人だけグッドをしてくれました。他の人は、笑顔で見てくれました。ぼくは、おうえんするってこんなによいことなんだなと思います、今でも頭に入れています。

小6

▽ぼくが、お母さんのおなかの中にいた時の話です。大きなおなかのお母さんは、買い物に行くとき、買い物カートやカゴなど、何も言わずにお母さんのすがたを見て片づけてくれて、とてもうれしかったと教えてくれました。ぼくも、こまっている人や、体が不自由な人がいたら、助けてあげたいなと思いました。

小3

▽ぼくが誰とでも仲良くなれるのは、誰とでも同じように話をしたり接するからです。話をしないとその人のことを知ることができないし、もしトラブルがおきても無視していたら何も解決しないからです。自分の想像だけで人のことを決めつけるのはよくないと思うし、その人の本当のすがたではないからです。親や先生は「すごいね」と言っていました。ぼくのちょっといい所だと思っています。

小4

▽私の家は自営業です。今まで、仕事のお手つだいといっても、お客さんと話をしたりする仕事は、あまりありませんでした。今年は、お店番を手つだいました。少し、きんちようしました。でも、いろんなお客さんに、「がんばっているね、がんばんむすめだね」と言われました。お母さんの仕事の手つだいを上手にできたと思います。小さいお店だけど、いろんな人が来て、楽しかったです。みんなやさしくて、人とお話をする勉強ができました。

小4

▽私は、今年の5月に京都奈良に修学旅行に行ってきました。タクシー研修で、私たちのグループが乗ったタクシートの運転手さんは、とても楽しく、よくしゃべる方でした。お寺などを見る時でも車の中でも、建物や歴史についておもしろく教えてくれました。とってもらった写真は、すばらしかったです。修学旅行の思い出というと、タクシー研修が最初に思い出されます。歴史あるきれいなお寺とともに、運転手さんのお話でもとても記おくに残るものとなりました。

小6



小6

▽妹といっしょに初めておつかいに行きました。お母さんに「だいこんを買ってきてね」と言われたのでえらんでいたけれど、なかなかきまらなくてずっと立ち止まっていました。親切なおじいさんが「このだいこんがとてもおいしいよ」と話しかけてくれました。おじいさんの温かい言葉聞いて、心がポッカポッカになりました。

小5

▽私は、初午祭りという祭りでみこさんをやりました。お参りに来た人のお稲荷様をあずかって、おはらいしてもらおうというお手伝いをしました。その時に、ふくろの中に物をいれなければいけなかったけれど、ふくろがあけられませんでした。すると、お参りに来た方が「大丈夫？」と言って手伝ってくれました。全然私のことを知らないのに、困っていたら助けてくれる方はすごいと思います。私は知らない人だと声をかけることができないけれど、その方みたいに困っている人がいたら助けられるようにしたいです。

小5



小5

▽かぞくと花火を見に行ったとき、イスをわすれました。となりにおばあさんがきました。みちにすわっているわたしたちを見て「わたしは、はこをもってきたからこれにすわるで、よかったらこれつかって」とゴザをかしてくれました。みちにすわっているときは、おしりがいたいしあついし気もちよくなかったけど、かしてもらえて気もちよく花火を見られました。かえるときに「ありがとう。おやすみなさい」というと、おばあさんも「いやいや、元気にやってね」と言ってくれました。

小2



小2



みち

▽ぼくは、ならい事の帰り、お母さんとはなればなれになったことがありました。ぼくは、一人で歩いて家に帰りましたが、お母さんは見つからず、もう一度、ならい事の場合へもどろうとしました。歩いていると中、心ぼそくなり、なみだが出てきてしまいました。そのとき、自てん車で通りがかった学生のお姉さんが「どうしたの？」と声をかけてくれました。そして「いっしょにならい事の場合まで行くよ」と言ってくれました。二人で歩いていると中、お母さんが車でさがしに来てくれました。お母さんに会えて安心しました。やさしいお姉さんがいてくれて、すごくうれしかったです。

小3

▽ぼくは、たまに食べる前に「いただきます」と言うのをわすれることがあります。でも、おじいちゃんやおばあちゃんとりんどく会で「いただきます」の大切さを知りました。今までは、何も考えずに言うことが多かったけれど「いただきます」は「命をいただきます」ということだから、心をこめて言わないといけないと思いました。そしたら「いただきます」と、しっかりと初めに言うことができたり、心をこめて言うことができました。つぎは「ごちそうさま」にも心をこめて言いたいです。

小4



小4

中学校編



☆ あいさつでニコニコ笑顔……………	45
☆ 家族っていいな……………	47
☆ 友だちっていいな……………	60
☆ 部活・クラブ……………	77
☆ 先生ありがとう……………	90
☆ 地域のひととのつながり……………	94
☆ ボランティア……………	99
☆ うれしい出来事……………	103



おあいさつでニコニコ笑顔

▽私が学校から下校している時でした。いつも通学路にいるおじいさんに、勇気をだして「こんにちは」と言ったら「はい、こんにちは」「おかえり」などと挨拶を返してくれました。とても温かくうれしい気持ちになったし、勇気を出して挨拶をすることや返すことは大事なことだと思いました。これからは、学校の人、出会った人、家族など、いろいろな人に挨拶をして、気持ちよく一日をスタートできたらいいなと思いました。

中3



中3

▽私が学校へ行く際、20・30代ぐらいの男性の方とすれちがいます。最初、自分は挨拶をしようと思いませんでした。今まで、自分は、友だちや親しい地域の方しか挨拶をしてこなかったからです。ですが、その男の人は、知らない私に「こんにちは」と挨拶をしてくださいました。その時、私は、なんだかうれしい気持ちになりました。今では、登校する際、その男性と挨拶をかわすのが習慣になっています。また、このことがきっかけで知らない方にも挨拶をするようになりました。まだその男性とは挨拶を交わすただけけど、いつかお礼を言いたいです。

中2

▽僕は、挨拶が好きです。いつもすれちがった人には自分から挨拶をするようにしています。でもある日、登校中にイヤホンを付けて歩いている人がいました。僕は「聞こえないかもしれないな」と思いながらおじぎをして挨拶をしました。そうしたら相手の人がおじぎをしてくれました。うれしかったです。「おはようございます」「こんにちは」「こんばんは」と言葉を話さなくても相手に伝わったこと。「あいさつ」は言葉だけではないんだなと思いました。

中3

▽私は、生徒会の活動で挨拶当番をするようになってから、登下校中に会った地域の人にも自分から笑顔で挨拶をするようになりました。今までは、もし挨拶を返してもらえなかったらどうしようといった不安から、挨拶ができませんでした。しかし、自分が変わったことで次のようなことがありました。ある日の下校中、元氣よく歩くおじいさんが前からやってきたので「こんにちは」と、疲れていながらも笑顔を作って挨拶をしました。すると「お帰りなさい。気をつけてね」と優しい笑顔を返してくれたのです。私は、その優しい笑顔を見てとてもほっこりしました。そして、笑顔には、人の心を救う力もあるんだなとしみじみと感じました。残念ながら、校門で挨拶当番の仕事をしていても、笑顔で心からの挨拶を返してくれる人はあまりいません。だからこそ、私は普段から挨拶や笑顔を大切にして、自分だけでなく、周りの人も幸せにできるようにしたいと思います。

中3

家族っていいな

▽私の親は、仕事で夜遅くに帰ってくるのがあたり前です。夜、ご飯を一緒に食べられることがぜんぜんないので、いつになったら食べられるのだろうとお姉ちゃんに話しました。すると、お姉ちゃんは「お父さんとお母さんはね、私たちが、ご飯を食べたり生活できるように毎日頑張っているんだよ」と言いました。そこで私は、考えました。日常のことを思い出してみると、毎日おいしいご飯を食べたりしているのは、お母さんとお父さんのおかげで、お母さんの仕事さや、お父さんの仕事を見ていたので、とてもがんばっているのを思い出しました。これからお父さんやお母さんが疲れていそうな時に少しでも支えられるようにしたいです。

中2

▽私は今、受験生です。少しずつ自分のペースで頑張っています。ですが、元々頑張ること、また継続するのが苦手な自分。だから、やる気がおきないことが多々あります。そんな時、親や姉妹が一番に気づき「がんばれ」「今が一番ふんばる所」など応援の言葉をくれます。その時は、応援してくれている素直な気持ちを受け取れずイライラしてしまうことが多いですが、あの「頑張れ」の言葉があるからこそ少しずつ「やろう」という気持ちになれるんだと思います。私も、もし誰かが悩んだりしている時は、素直に受け取れなくてもはげましの言葉や自分の素直な気持ちを伝えたいと思いました。

中3

▽私の親は、帰りが遅いことがほとんどです。親がどれだけ遅くても、家族全員でごはんを食べ、ていました。けれど、私が中学校にあがってから、皆で食べる日が少なくなっていました。親が帰ってくる前に、自分で作っていたからです。そんなある日、いろいろな出来事が重なって作らない日がありました。親が帰って、夕飯の時間になりました。久しぶりに家族と食えることが嬉しいような、少しドキドキしていました。私は、家族と一緒に食える時間が減るのは惜しいと思う反面、何をしゃべればいいのか分からず、無言で食べていたら、お母さんが「今日のご飯おいしい？」と聞きました。もちろん「おいしい」と答えました。そこから皆とも会話が弾んでいきました。他愛のない話だけど、久しぶりだった私にとっては嬉しかったです。成長したからこそ忘れていたものもあって、逆に新しいものに気がつくこともあります。私は、今後それを大事にできるようになりたいです。

中2

▽僕が、高校に進学をするか就職をするかで悩んでいた時に、お母さんとお父さんが、僕の悩みをちゃんと聞いてくれて、どうするかを一緒に、考えてくれたので、うれしかったです。なので、家族のありがたさがすごくわかりました。

中3

▽私は、よく土曜日の夜ごはんを作ります。その日は、ビーフシチューを作りました。そしたら、黒こげになり失敗してしまいました。家族全員が楽しみにしてくれていた夜ごはんが食べられないものになり落ち込んでいます。家族全員がはげましてくれて「作ってくれてありがとう。今回は失敗しちゃったけどまた作ってよ。楽しみにしておくれね」と言ってくれました。家族の温かさにふれ、とてもうれしかったです。

中2

▽私は、よく家族と話します。一緒に空間に居て、特に父親とは、よく話し、アニメと一緒に見るほど仲が良いです。そんな話をふとした時に友達に話すと「いいなー」とか「えー」と驚かれます。私は、それが日常と化しているので不思議に思っていました。三者懇談があった時、その様子を先生に話したところ、先生すらも驚いていました。年齢的に見て、そういう子は少なくみんな自室にこもりがちらしいです。それを聞いて私は「うちの家族は他にも仲が良いんだな」って思いました。多分、反抗期もあると思います。だから私は、話せるうちに家族と話しておこうと思うし、いっぱい遊ぼうと思います。そして「私の家族はとても仲良く楽しいんだよ」と、みんなに自慢したいです。このちよっとしたみんなと違う幸せを大切にしていこうと思います。



中2



中2

中2

▽私は、人前で大きな声を出すことや誰かを注意するのが苦手です。なぜなら「周りにどう思われるのか」と考えてしまい、大きな声を出して注目されるのが嫌だからです。それを克服しようと、立候補して班長になりましたが、未だ班長としての自信がありません。しかし少し前、親に相談した時、母も昔は同じだったと教えてくれました。私には、いつも地域活動の時、積極的に意見を言っている母が、前は私と同じだったなんて信じ難いことでした。私は、親に「なんで今は周りを気にしなくなったの？」と聞いてみました。すると「高校で班長になった時、意見を出したり注意したりして周りにほめられることが多く、自分に自信が持てた」と話してくれました。また「小学校と違って、注意して嫌われることはないんじゃない？」と言われて心が軽くなりました。今も注意をするときなどは緊張してしまいあまりできていませんが、少しずつ自分に自信が持てるようにしたいです。

中2

▽僕は、お母さんの手伝いをするのがあまりできていません。なので、日ごろの感謝をこめてマッサージをしたらお母さんに「ありがとう」と言われてほくほくもすごくうれしくなりました。今回学んだうれしさを忘れないためにもこれからは、しっかりとお母さんの手伝いや感謝を伝えるということをしていきたいと思いました。

中1

▽私の母親は、いつもいろいろなことを言ってきます。「もう少し点取れるでしょ」「早く勉強なさい」と。少し鬱陶しい時もあるけれど、それは母親が自分に期待してくれていると思つています。ある数学のテストの時に、今までより沢山勉強して高得点を取ることができました。「また何か言われるかな」と思つて母親にテストを見せました。すると、母親は「よく頑張つたね」と言ってくれました。まさかこんなことを言われるなんて思つていなくてとてもうれしかったです。改めて母親の優しさを知ることができてよかったです。

中2

▽僕は、お母さんが嫌いです。いつも怒られてうるさいし、もううんざりです。僕は「どうして怒られるのかなあ」と考えたことがあります。けれど、どうしても答えが出ません。ある日、おばあちゃんはこう言いました。「怒られる理由はね、自分のむすこが立派な大人になるために、毎日怒っているんだよ。けつして、嫌いだから怒っているんじゃないかって、好きだから怒っているんだよ」と言ってくれました。僕は、改めてもう一度考えました。「どうして怒られるのか」僕の答えは「いつも怒っているのは、僕のことを思つて怒っている」これが答えです。これからも怒られる日が続きます。けれど、そんなお母さんも好きです。もう中学生、怒られるのは小学生まで。これからは、お母さんに怒られながら楽しい時間を一緒に過ごしていきたいです。

中2

▽いつも私のお母さんは、家を出てすぐの曲がり角を曲がる時に手を振って送ってくれます。ある日、お母さんが体調を崩していたので送ってもらえず、角を曲がった時に少しさみしい気持ちになりました。その時、お母さんに送ってもらおうことで、明るく一日をスタートできていることに気づきました。これからは手を振って送ってもらえることを当たり前と思わず「毎日ありがとう」という気持ちを込めて振り返るようにしたいです。

中2

▽母は少し口うるさいです。すぐに「勉強しろ」と言ったり、兄弟と比べようとします。確かに自分が悪いと思う時もあります。しかし、塾の宿題をやっている時に「皿洗いをしろ」とか「洗たくして」と言われ宿題ができません。最初は手伝いをやってから宿題をやっていました。が、数日たって手伝いをせずに遊んでいると、雷が落ちてきます。でも、夏休みに僕の遠征について行って疲れているのに翌日5時半に起きて仕事に行っていることに気づきました。「親が仕事に行くのは当たり前」ではなく、自分たちを養うために母は父と協力して金をかせいでいることに。そう気づいた僕は、最近自分の仕事を決めて自分で動いています。洗たくや皿洗いなどで母がきつい時は、僕は妹と一緒に料理をしています。親の誕生日や父の日、母の日などはちゃんと父と母を祝っています。日々がんばっている父と母に少しでも育ててもらった恩を返せるよう努力していききたいと考えています。

中2

▽私は、今年受験生です。中3になってからは毎月テストがある為、点数を落とさないように家や塾で勉強を精一杯頑張っていました。でも時々「もう勉強をしたくない」と家でひとり言を言うことがあります。そんな時に私のひとり言を聞いていたお母さんやお父さんが「頑張ってるね」「少しぐらい休んでもいいんじゃない」と声をかけてくれました。私は、自分ができないと自分を責めてしまうことが多いけれど、お母さんやお父さんは「私が頑張っている」「大丈夫」と認めてくれます。私は、両親にこの言葉をかけてもらい、「このままの自分でいいんだ」「ちょっと休憩して切り変えよ」と前向きな気持ちになることができました。また、自分を責めて苦しむよりも、自分を認めて前向きに物事を受けとめる方が良いなと思うことができました。なので、今後、受験本番や思っていた通りにならないことがあると思うけれど、自分を認めて前向きに生きていきたいです。

中3

▽期末テストが返され結果を見ました。社会、国語はよくできていて、その他はあまりよくありませんでした。お母さんに結果を見せ「あんまりよくなかった」と言いました。すると、お母さんは「えー全部できてなくてもいいじゃん。社会と国語よくできてるね。他の教科も頑張りな」と励ましてくれました。この時、私は「もっと勉強頑張ってみよう」とがんばりました。そのおかげで徐々に点数が上がっていききました。私も人が落ち込んでいたら、否定から入るのではなく、まずは励ましてあげたいと思いました。

中3

▽僕は、吹奏楽部の部長をしています。演奏会の準備や生徒会選挙の準備などが重なり、思いつめていたことがありました。そのことを家族に相談すると「あと半年の付き合いだから、今大変でもあとちょつと思えばいいよ」と言ってくれました。父は、「よかつたら部活休んでどっか行くか」と自分の休みを使って日帰り旅行に連れてってくれました。今までは家族に悩みを相談するのが怖かったけど、家族みんなが寄りそってくれて、すごく温かい気持ちになりました。僕も、そんな家族のように友だちの悩みを聞いてあげられるようにしたいです。

中3

▽私の妹は、「ご飯やおやつを作ると「おいしい」と言ってくれます。妹が食べたきれいなお皿を見るともううれしくなります。私は、給食をよく残していました。でも、お皿をきれいにして食べてくれるのがうれしいのと同じで、給食を作ってくださいる方々にも残量がない方がうれしいと思います。なるべく給食を残さないようにしようと思いました。給食を作ってくださいる方々、毎日ありがとうございます。妹、ご飯やおやつをきれいに食べてくれてありがとうございます。

中1

▽僕には、3才の弟がいる。僕は、野球をやっている。野球をやっている中でも、苦しい時がある。特に試合の時、ピンチの場面ではどうしても元気が出ない。そんな時、弟の声を聞くとすごくがんばれる。しっかり言葉にはなっていないけれど「頑張れ」と伝わってくるような気がする。あらためて弟だけでなく家族の存在をありがたく思った。

中1

▽私が姉と口喧嘩をしてしまい、なかなか仲直りができなくて落ち込んでいた時、妹が「一緒にゲームしよう」と姉と私を誘ってくれました。最初は気まずくて楽しくゲームができなかったけれど、姉と協力してゲームをしていたら、自分から話をしていました。あの時、妹が「ゲームしよう」と言った何気ない言葉がとつてもうれしかったです。

中2

▽保育園で作る不器用ながらもかわいい文字と色をぬるのをがんばったクレヨンの跡のあるもの。それは先生や家族に送る「おてがみ」です。私はこれを「価値の高いもの」と思いませんでした。妹の行動によって考え方が変わりました。私と妹の年齢差は7才です。妹と遊ぶ人形ごっこやゲームは本気で楽しんでいましたが、小学校高学年から日常だった「遊び」が勉強などでありできなくなりました。妹はそんな私に「遊んでよ。遊んでくれないと怒るよ。悲しくなるよ」と言います。私がハグをしようとする「嫌だ」と言います。しかしある日、保育園で作った「おてがみ」を私にくれました。そこには「おねえちゃんへ。いつもあそんでくれてありがとう。だいすきだよ」と書いてありました。私のことが嫌いかもしれないと思っていましたが、私が妹を好きなくらい妹は私のことを好きだと思っていたのです。この「おてがみ」のことを忘れないで姉妹同士でがんばります。

中2



▽私には、双子の妹がいます。三姉妹なので、いつも2対1になつてしまい、双子はいつも一緒、私は一人寂しくその二人を見つめている場面が多くありました。幼い頃、私が一人でいると「三人でやろうよ」と末っ子が言ってくれた時がありました。私は、それが嬉しくて、それ以来三人で行動することが多くなりました。今は、三人仲良く、時々喧嘩をしながら家族兼友だちのように暮らしています。

中3

▽この夏に、ろくに外に出ることもなくつまらない夏をすごしていた私を見てかわいそうだと思った兄が、自分を旅行に連れて行ってくれました。私は、毎年のようにうすい生活をしていましたが、自分も学生のうちに思い出をつくってあげようと兄が必死に頑張ってくれたと思うと、自分がこれからも生きていく中で、兄に少しずつ恩返ししていきたいと思いました。

中3

▽僕は、祖父と祖母の家に毎日行きます。親の帰ってくる時間が遅いためです。だから、いつも夕食を祖母の家で食べます。いつも何も考えず祖母の家で夕食を食べているけど、今、考えてみると感謝すべきだと思います。祖母は腰を痛めています。それなのに、いつも僕や弟のために夕食を作ってくれるからです。また、祖父は、僕が自分の家で暮らしている時に、外で草かりをしてくれるなどいろいろなことをしてくれています。振り返ると、感謝することがたくさんあるので、祖母と祖父にその気持ちを伝えられるようにしたいです。

中2

▽祖母は、今認知症になりかけている。だから物忘れがひどくなり祖母の息子（私の父）と私の兄との区別もつかなくなってきたしまっている。祖母は、時々私の家に来て野菜をくれたりするが、何回も同じ野菜を持ってきたりしている。そんな時も私の母は優しく「さつき野菜はもらいましたよ」と教えたりしている。また、母や私と話している時も同じことを何回も聞くことがある。そういう時も母は怒らず祖母が聞いてきたことに対して答えている。私は母を見習ってそういうことをすることが苦手だ。だけど、今まで遊んでくれたりした祖母に怒ったりすることは、すごく悪いことだと思っている。だから少しづつでいいから祖母に優しくできるようにしたい。



中1

▽「手伝ってくれてありがとう」私が祖母の家に行って手伝いをした時に言われた言葉です。私と祖母の家は近く、よく遊びに行きます。いつも優しく、たくさんほめてくれたり、お菓子をくれる自慢の祖母です。そんなある日「庭の草がのびてきたから草とり手伝ってくれる？」と言われ、私と祖母で草とりをしました。無事草取りが終わった後、祖母は「手伝ってくれてありがとう」ととても嬉しそうに言ってくれました。私は、その時、些細なことでもこんなに喜んでもらえるのだと初めて知りました。これからは、些細なことでも自分から進んで誰かの役に立つ人になりたいです。

中2

▽今年の夏休み、相母に会いに行く予定でした。けれど、台風の影響で会いに行けませんでした。だから、みんなで祖母に手紙を書いて送ろうという話になりました。そして送ったら、祖母がとても喜んでくれて、手紙の返事を書いて送ってきてくれました。書いてよかったなと思ったし、メールや電話じゃなくて、手紙で伝えるのも大切だなと思いました。

中3

▽私は、たまにおばあちゃんと一緒に買い物に行きます。おばあちゃんの買い物は、とても長いけど、自分がほしいものを買ってくれるという理由だけで、その買い物について行っていきます。だけど、買い物が入っているエコバックを私が持つと、おばあちゃんはずぐに「ありがとう」と言ってくれます。おばあちゃんその言葉のおかげで、おばあちゃんとする買い物が好きになりました。買い物について行く理由は変わらないけど、これからおばあちゃんを助けていけるようにしたいです。

中3

▽おばあちゃんの家には家族で遊びに行った時の昼ごはん、一品私が焼きそばを作りました。すると、あまりたくさん食べることのできないおばあちゃんが「おいしい」と言いながらたくさん食べてくれました。帰る時になると、私の目を見て「また焼きそば作りに来てね」と言ってくれました。笑顔で食べてくれる顔を見て幸せになりました。私が作った焼きそばを「おいしい」と食べてくれるおばあちゃんのために、また行きたいです。

中3

▽私は、お米があまり好きではありませんでした。いつも、ご飯を食べる時は減らしていました。しかし、お米の田植えと収穫をした時にたくさん汗をかいてとても疲れました。おじいちゃんやおばあちゃんが毎年こんな思いをして育てていると思うと、お米をいっぱい食べようと思いました。それから、たくさんお米を食べています。

中 3

▽私は小学生の時、パプリカが苦手で食べることができませんでした。いつも食べられなくて、残したくないけど食べられないからとても悲しかったです。でもおばあちゃんが、パプリカを食べられる魔法を私にかけてくれました。すると、パプリカを自然と食べられるようになりました。私は、しばらくしてから、おばあちゃんに、「昔、どんな魔法をかけたの？」と聞いてみました。すると、おばあちゃんは「魔法なんてかけて無かったんだよ。でもね、人は信じれば、どんなに嫌なこと、苦しいことでもできるようになるんだよ」と教えてくれました。今、思えば、魔法なんて無かったんだと思います。でも、私は、それを信じていました。だから私は、「おばあちゃん」という存在のおかげで、パプリカを食べることができています。今、私は、瑞浪市民として地産地消を心がけ、少しでも瑞浪の農家さんに貢献できるように、家族でチャレンジしています。



中 1

☆友だちっていいな

▽学校で生徒会選挙があり、私は代理で選挙管理委員をつとめることになりました。選挙管理委員は、全校の前で投票説明をしなければいけません。私は、昔から人の前で話すのが苦手ですごく緊張していました。本番前「どうしよう。できるかな。大丈夫かな」と不安がっていたら、友だちが「○○ちゃんならできるよ」と声をかけてくれました。その友だちは、生徒会で立候補する子で、原稿なしで話さなければいけないので、私よりも緊張しているはずなのに、私に声をかけてくれました。とても温かくなって少し自信がわきました。その子の声かけのおかげでハキハキしゃべることができました。言葉の力はすごく大きなものだと感じかされました。

中3

▽私は今年、生徒会副会長に立候補することになりました。選挙活動を行う時、初めての経験ということもあり、上手くできるかとても不安でした。すると、親友の女の子が「大丈夫。きっと上手くいくよ。自信持って」と励ましてくれました。その子は私の責任者になってくれて、原稿の製作を手伝ったり、ポスターを書いたりしてくれました。その子の協力があったおかげで私は無事に生徒会副会長になることができました。今でもとっても感謝しています。

中3



中3

▽私は、学校で議員という役職を努めています。ある時、委員会であいさつのキャンペーンを各クラスで考えて行うように言われました。最初は、クラスで話し合っただけで済めようと思っていたけれど、クラス内で少しトラブルがあつて話し合う時間がなくなつてしまひ、悩んでいました。なかなか案がうかばなかつたので、学級執行部の仲間に相談してみたら、クラスの課題からキャンペーン内容を考えてくれました。仲間がアイデアを出してくれたおかげで、今の私のクラスに合ったキャンペーンを行うことができました。私は、今まで自分の役割は自分が全部やりきらなさいいけないと思ひ、抱え込むことが多くありました。でも、今回のことを通して仲間に相談したり、頼ったりすることも大切だと思ひました。これからは自分一人で悩まず、友だちや仲間に相談して協力していきたいです。また、私も周りの仲間の相談にのつたり、仲間と協力したりしながら学校生活を送りたいです。

中3

▽僕は、委員の仕事で放送をしました。初めてだったこともあり、しゃべつていくうちに、どんどん緊張して詰まつたりもしていました。そんな時に、とってから同じ委員の子が「頑張つて」など応援の声や原稿の続きをささやいてくれました。放送に声が入らないように小さな声でエールを送る思いやりの姿で、僕は、放送を続けることができました。僕も誰かが困っていたら、率先して助けていきたいです。

中3

▽私は、学級で食育推進委員という仕事をしています。食育推進には、エレベーター当番というワゴンを一階に移動させる当番があります。ある日、私は、エレベーターが完全に上がりきっていないかったのに気づかずワゴンを入れようとしてしまいました。入れた瞬間、ワゴンがエレベーターの扉に挟まってしまいました。すると、友だちがかけつけてくれて手伝ってくれました。「みんなに迷惑をかけたな」と自分を責めてしまい泣いていると、友だちが背中をさすりながら「大丈夫だよ」と声をかけてくれました。私のことを助けてくれたみんなに「ありがとう」の感謝の気持ちを伝えたいです。

中2

▽私は、少し精神が疲れている時がありました。学校のクラスメイトが楽しそうに笑っていると「いいな」なんて思う時があったり、周りの空気に上手く入れなかつたりしていました。そんな時に私を救ってくれたのは、二人の友だちでした。ほぼ毎日、電話で「大丈夫？」などと声をかけてくれたり、相談にたくさんのお話をしてくれました。そして、もう一人の友だちは「無理にみんなの空気に入らなくていいじゃん」と言ってくれました。私は、この二人の友だちのおかげで、今は毎日楽しい学校生活を送れています。二人には、「ありがとう」の言葉じゃ伝えきれないくらい感謝しています。そして、この経験をしたからわかったことがあります。何か悩み事があったら友だちなどに相談すると気が楽になります。「やっぱり友だちが一番だ」と思いました。いつか二人にも、私にしてくれたことを恩返ししたいです。

中2

▽私は、人と関わるのが苦手でした。仲良しと思った友だちに悪口を言われたり、ある日急に話してくれなくなったりと、友だち関係がうまくいったことが全くないからです。自分が悪口でものすごく傷ついた経験があり、他の人に同じような気持ちにさせたくなくて一人で行動することが多く、友だちと話すことを極力避けていました。休み時間は一人で本を読んだり、班交流では班員の意見だけ聞き、自分の意見は言わなかったり。私に話してくれる友だちはもういないと思っていました。ですが、中3になりクラスが替わると、二人の女の子が話しかけてくれました。今ではその二人を含めてたくさんの人と話すことができます。二人は、私が一人で居るのを見つければ話しかけてくれて悩み事まで聞いてくれました。二人のおかげで私は、いろいろな人と関わりが持てるようになりました。すごく嬉しいです。今では、初めて話す人とも楽しく会話することができます。ありがとう。

中3

▽私は、中学生になってから、よく人間関係について悩まされました。身近な人とどんな風に関わっていくのか自分自身を責めていました。でも、先輩に相談するたびに「大丈夫、大丈夫」「○○なら大丈夫」などいつも優しく相談に乗ってくれて心が軽くなりました。「大丈夫」というその言葉一つで心が軽くなり、私もそのような温かい言葉をかけられたらなと思いました。

中2

▽少し前に僕は、誕生日を迎え14才になりました。その日に仲の良い部活の先輩から「練習終わりに渡したい物がある」と言われて練習に誘われました。「たぶん誕生日プレゼントなんだろうな」と思い、どんなものをくれるだろうとわくわくしている、意外にももらったものは手紙でした。先輩にお礼をして家で改めて読んでみると、そこには「いつもありがとう」などと日頃の感謝が出てきました。ありがちなプレゼントもいいけど、特別な手紙もいいと知り、心があつたまつた僕でした。

中2

▽中学2年の体育大会での出来事でした。同じクラスの子が体調不良で次の種目に出られなくなってしまうました。すると、ある子が「○○さんのはちまきもつけておこうよ」と言い、自分の腕につけていました。私はその行動を見て、温かい気持ちでいっぱいになり、私もがんばろうと思えました。そう思えたのは、今いない子もこの日に向けて努力してきたので、その努力を無駄にしないことや「クラスで優勝を目指す」という強い思いがあったからこそだと思います。今までのその子の努力や思いはみんなに伝わっていたからこそ、このような行動が見えたと思うし、今、自分や誰かがしている努力や思いを見ていてくれるし、その行動や思いには決して無駄なものにはなっていないんだと改めて感じる事ができました。だからこそ自分が大切にしてほしいや目標を行動に移していきたいし、自分だけでない違う視点で仲間を見つめることを大切にしていきたいと思いました。

中3

▽僕が仲の良い友だちと遊んでいた時、友だちが停めてあった車に自転車をぶつけたことがありました。その車は黒色の高そうな車でしたが傷がついてしまったので、僕は「やばいな」と思いました。そして同時に、しっかりと見ないと分からないくらいの傷だから、「持ち主に謝らずに帰ってもばれないな」とも思いました。しかし、その友だちは車の持ち主に謝っていました。謝った結果、少し嫌な顔はされたけど、そんなに怒られることもなかったです。この時、僕は自分ももし自転車をぶつけたらどうしていたかなと考えました。自分だったら、車の持ち主が恐そうなおじさんでブチ切れてきたらなどと考えてしまい、謝ることができないかもなと思いました。そう思うと、自分がやってしまったことを認め、素直に謝ることができるのはすごいと思うし、それが友だちのいいところだと思いました。そんな友だちの良さにちよつといい気分になりました。

中3

▽私には4人の仲の良い友だちがいます。いつも一緒に登下校したり遊びに行ったりしています。しかし、その内の一人の子がクラブでの人間関係がうまくいっていないなかつたそうです。心配してくださった先生が声をかけると、その子は、「4人がいるから大丈夫です」と言ってくれたと聞きました。私は、自分たちがこんなふうに信頼されていると知り、とってもうれしくなつたし、友だちはかけがえのない大切な存在だと改めて感じました。これからも5人のきずなを大事にしていきたいです。

中3

▽僕には、学校に来たくても来ることができない友だちがいます。はじめは「学校に早く来てほしいな」と思いつつも何もしていませんでした。しかし、その友だちに会った時「修学旅行は一緒に行きたいから頑張る」と僕に笑顔で力強く言ってくれました。その時、僕は、自分でも来やすいように何かできるのではないかなと思いました。少し経った時、友だちみんなで「誕生日おめでとう」と言いに行きました。その時には会えなかったけれど、その子のお母さんからとても喜んでいと教えてもらいました。僕はそれを聞いてとてもうれしかったです。「おめでとう」と一言だけでも相手をうれしくさせるとわかったので、こういうことを続けていって学校に来やすいようにしたいです。

中3

▽新学期になってクラスが変わり、2年生の時、仲良しだった人と違うクラスになってしまいました。新しいクラスに仲がいいと言える人はいなくて悩んでいました。それを友だちに少し話したら「休み時間とか会いに行く。連絡もするね」と言ってくれました。その子も仲良しの子と離れてしまって少し悩んでいたそうです。私は、すごくうれしかったです。共通の趣味もあって2年生の時のように楽しく話したり遊びに行ったりできて、その悩みはなくなりました。また、その子が背中を押してくれたおかげで、今はクラスにもなじめました。友だちを持つって本当に大切に、うれしいことだと感じました。

中3



中3

▽私は、人と関わるのがあまり好きではありません。けれど、一人だけ親友と呼べる女の子がいます。私の変化に気づいてくれたり、私の表情が悲しい顔だったりすると何かしら言葉をかけてくれます。ある日、あまり気分がよくなって笑顔がなかった時がありました。落ちこんでいると「何かあったの？」と声をかけてくれました。自分自身ではそんなに暗いと思われるようなことをしていなかったけれど、一番に気づいてくれました。「私に一番の味方だよ」この何気ない一言に私は救われました。私も困った時には助けてあげたいと思います。

中3

▽去年の冬のことです。私はとても体調の悪い日がありました。学校にいただけで寒く、早退するか迷っているところでした。少し保健室で休んだら良くなったため教室へ戻りました。私は、普段ともうるさいですが、この日は元気がなく静かだったため、クラスのみんなが心配してくれました。この後のみんなの行動に私は、とても心が温かくなりました。私が寒がっていたら、登下校で着ている防寒着を貸してくれたのです。しかも、一人だけでなく、5人ほどが貸してくれ、私が雪だるまのようになるくらいでした。これだけではありません。10人ほどの人がカイロも貸してくれました。中には背中をさすってくれる子や、給食の時「この汁に手あてると温かいよ」と声をかけてくれる子もいました。この行動で寒かった私の体は心から一瞬で温かくなりました。また、みんなには感謝しきれないくらいでした。こんな優しいクラスのみんなに出会えた私は幸せ者だと思いました。

中3

▽この前、道徳の授業で「自分のいい所と悪い所はどこか」ということをしました。私は、自分のいい所を見つけることができませんでした。自分の悪い所がたくさん出てきて、私は班長なので頑張っていたけど、もしかしたら班長としての役割が正確にできてないかもしれないと思いました。その後、班員に自分のいい所を書いてもらうという話だったので、何て書かれるのか少し心配でした。しかし、みんなからの意見をもらうと「仲間思い」や「頑張ってくれている」「班を引っばってくれる」など思ってもいない返事が返ってきました。それを見て私は、「ああ、みんな気づいてくれていたんだな」と思い安心しました。私は、一人でも私の努力を認めてくれることはこんなにもうれしいんだなと思いました。

中3

▽今年クラスが変わり、5月ごろに日間賀島に宿泊研修に行きました。でも、行く前まで行きたいという気持ちはあまりありませんでした。それは、クラスが変わり、あまり話したことがない子がいて、しっかり楽しめるか不安だったからです。なので、民宿でも、コミュニケーションがとれるか心配でした。でも、いっしょに話していくと「この子、すごくおもしろい」と思うようになりました。私も話することが好きで、おもしろくて楽しい時間がとても大好きなので、一緒に話す時間がとつても楽しかったです。この日からたくさん話すようになって、お互いにぶざけあえる仲になりました。はじめは行きたくないと思っていた研修が、この子のおかげで最高の思い出になりました。

中2

▽私には、去年から話すようになった仲の良い子がいます。その子とは、学校の休み時間はもちろん休日も遊ぶくらい気が合い、その子といると時間があつという間に過ぎていきました。ある日、いつも通りその子と話をしていました。そしたら急に、その子が「私、好きな人いるんだよね」と相談してくれました。その子と恋バナとかをしたことはなくて初めてだったので、とても嬉しかったです。私を信用してくれている人だと思い、とても心がホッとしました。

中2

▽私の学校では、毎年持久走が行われています。持久走では半分ずつに分かれて走ります。次々と走り終わっている中で最後まで一生懸命走っている人がいました。その時、走り終わった人の数人が「頑張れー」「あと少し」などの声をあげました。その瞬間から次々と走り終わった人や記録をとっている人からたくさんのお支えが最後まで一生懸命走っている人にかかけられました。そして、中には走っている人と一緒に走って、とたなりで声をかけている人もいました。私もみんなと一緒に走って、とたなりで声をかけている人が走り終わると「おつかれさま」「頑張ったね」などたくさん声がかけられました。最後まで走りきった人は、安心したようなうれしそうな顔で「ありがとう」と言ってくれました。その言葉を聞いて私も、うれしい気持ちや温かい気持ちになって、お支えしてその子が最後まで頑張ることにつながったのならよかったなと思いました。

中3



中3

▽私は、とび箱をすることが苦手です。学校の体育の授業でとび箱があり、怖くなっていると、周りの友だちが「大丈夫だよ。失敗は誰でもするよ」と温かい雰囲気をつくってくれました。そのことで勇気をもらい、みんなが応援してくれているから頑張ろうと思えて、とび箱を飛ぶことができました。私は、その経験をしてから、友だちがいることはとてもありがたい大切なことだとわかったので、私もこれからやさしく声をかけてあげたり、今いる友だちを大切にしていきたいと思いました。

中2

▽自分は、体育や運動をすることが苦手です。しかし、背が大きいこともあり、周りの子には「運動、得意でしょ」や「○○がいるから安心する」など期待され困っていました。でも、友達が「大きいからって運動が得意かはわからないでしょ」という言葉のおかげで、緊張がなくなり、楽しくできるようになりました。また、運動やスポーツ系統のコツなどをわかりやすく教えてくれました。教えてくれたことができたなら「出きたやん」や「すごい」と言ってくれ、次のことを教えてくれます。友だちのおかげで、今は、昔よりも運動することや体育が少し得意になったと思います。僕も、友達がしてくれたように苦手な子に教えてあげられるようになりたいし、教えてくれたことを生かして、今よりもっとうまくなっていきたいと、思いました。やさしく教えてくれた友だちには、とても感謝しているし「ありがとう」と思います。

中1

▽私は、体育でチーム戦や団体で組んでやるのが苦手です。だから、団体でやるより、個人でやる方が自分には向いていると思います。体育の単元でバレーボールをやった時に、自分は、いやだと思いました。練習のときも、打ってはいけないときに打ってしまうことが何回もありました。そして、チーム戦で戦う時に、自分のせいで負けたくないから、あまり動かないようと思ったら、一人の男子に「あせらないでいいよ」と声をかけられました。「ありがとう」と言ったら「一緒に頑張ろ」と言われて少し勇気が出ました。そして打ったら一点取れてうれしかったです。その子のおかげで堂々と立つことができました。

中1

▽私は、中学の初め、すごく緊張していました。一週間ぐらい経ったころ席替えがありました。前の席の子は、女の子でした。「仲良くになれるかな。なりたくない」と思っていました。でも、私にはしゃべりかける勇気がありませんでした。そのくらいとても緊張していました。その時、前の女の子が後ろを向いて「仲良くなりたくない」と言ってくれました。私と同じことを思っていたんだと思い、とてもうれしかったです。その子は、私にとって一番しゃべりやすい子になりました。このことは今でも忘れません。

中1



中1

▽少し前、私の近所に、フィリピンから日本に来た男の子が引越してきました。同じ学校で一緒に下校していた時、私は日本語以外しゃべれなくて一緒に話すことができませんでした。しかし、言葉ではしゃべれなくてもジェスチャーをしながら日本語を教えると、順番に覚えてくれてうれしかったです。他国から来て日本語がしゃべれなくても、ジェスチャーやカタコトでも話せることがとても楽しかったことを今でも覚えています。

中2

▽僕は、友だちとよくケンカをします。ただ、仲直りができずにそのまま過ごすことが多いです。そのことを他の友だちに話すと「自分の思っていることをすべて話さずに、素直に謝るのも大切だと思うよ」と言ってくれました。それから、ケンカした友だちに謝って仲直りができました。その友だちが言ったことを覚えて、これからもどんどん友だちを増やして、仲良くなりたいなと思いました。友だちは、悪い所も良い所も見つけてくれるから、自分も悪い所と良い所を見つけてより仲良くしていきたいです。自分の悪い所を見つけ、友だちの良いことを見つけるのも大切なんじゃないかなとも思いました。

中1

▽僕は、よく友だちと自転車で遊びに行きます。友だちは坂道や登り板などで、時々振り返ってくれます。「ついてこれているかな」と僕を気にしてくれる小さなやさしさが伝わってきます。とてもうれしいです。

中2

▽私は、ネットの絵関係のサイトで活動をしています。ネットで知らない人と会い、仲良くなることがあります。ある時、荒らしが来ました。荒らしは、時々いて、描き途中の絵を消したり、ぐちゃぐちゃにしたりすることです。荒らしはすぐにどこかへ戻っていききましたが、描き途中の絵はもちろん、完成した絵も跡形もなく消えてしまいました。少しがっかりしていると、一緒に描いていた人がなぐさめてくれました。描いた絵は、一度きりで戻ってこないけど、なぐさめてくれたおかげですぐ笑顔になることができました。その後、一緒に描いていた人と友だちになり、今も仲良くしています。荒らしに來た人を許せず探し出して、反省させることもできました。多分、私一人だとできなかったと思うけど、友だちと一緒に頑張ってくれたおかげで、今、幸せになれるのかもしれない。心を明るくしてくれた友だちに感謝したいです。ありがとう。

中2



中2

▽私は、転校生でした。私は、自分から話しかけるのが苦手で、相手に「迷惑かな…」と気にかけるすぎて、結局初日は、友だちと呼べるような存在がでできず一日終わるのかと思っていました。すると先生が「帰り道が分からないと思うから△△ちゃんと一緒に帰ってみたら？」と言ってくれました。それがその子と友だちになれたきっかけでした。今でもその友だちと、その先生にずっと感謝しています。

中2

▽私は、今中学2年生です。ある日、国語の授業で「どちらが好きか」という課題で話し合いました。もし、私とAさんと話をしたら、すぐギスギスすると思うけど、部員みんなは、相手ひとりひとりの意見をしっかりとニコニコしながら聞いていました。意見が別の人でも「なるほどね」という顔でしっかりと意見を聞いていました。意見が分かれていても、お互いのことを尊重しあえることが出来ていて、私ももっと視野を広げて、いろんな複数の回答を得てから考えて行動できるようにしたいなと思いました。そして、その判断力と行動力で差別がなくなること意識して生活していきたいです。

中2

▽僕には、昔からの友だちがいます。その一人にKくんという人がいます。ある日、僕が体調が悪くなり早退した時、Kくんは、かばんや勉強道具などを準備してくれました。そして、その日の夜、一通のLINEがきて「大丈夫か？明日は元気に来いよ」と言われとてもうれしく感じました。僕は、これからもKくんを大切にしようと思いました。

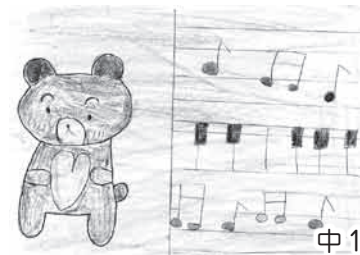
中2

▽給食の時、牛乳パックを誤って押ししまい、中身が飛び散ってしまいました。すると、周りの友だちがティッシュを持って来てくれたり、一緒に拭いてくれました。僕は「ティッシュ持って来て」や、「手伝って」なんて言っていないのに、こぼしたときにすぐに行動してくれました。僕もなにか起こったときは、すぐに適切な行動をとりたいです。

中3

▽去年私は、小学校で学校の演奏会のチラシをもらいました。その演奏には、私が2年生の時にいろいろ教えてくれたあこがれのお姉さんが出ているかも?と思って調べてみたら出ていたので見に行きました。私の同級生には、そのあこがれのお姉さんの弟がいます。演奏会を見に行った次の日に、あこがれのお姉さんの弟に「演奏を見に行っただけだめっちゃかっこよかったよ」と言ったら「伝えておくれ」と言ってくれました。そして数日後、そのお姉さんからお手紙をもらってとてもうれしかったです。もらったその日から私の宝物です。ありがとう。

中1



中1

▽研修のしおりを作るときに、僕のとりの人が休んでしまいました、その子は、班長をしていて班の子の提出物を確認したりして、とても頑張っている人です。そんな子が休むのが、とてもめずらしいなと思いました。僕は、その子の分まで作ってほしいと頼まれました。その時は、5時間目で、とても疲れていて、やる気があまりなく少し手を抜いてしまいました。折り目をきれいに折らなかつたりして、あまりよくない行動をしてしまいました。次の日に、その子が、学校に来たので「しおり作ったよ」と言って渡したら「ありがとう」と言ってくれました。僕は、手を抜いたのは間違いだったなと思い、何事にも全力を尽くそうとそこで思いました。

中2

▽友だちと私を含めて4人で、いろんな遊びができる場所に行きました。そこで私は左足首を捻挫してしまいました。その時、みんなが心配してくれました。二人の友だちは、車いすを持って来てくれ、もう一人の友だちは、迷惑をかけてしまったことに罪悪感があり悲しんでいる私をなぐさめてくれました。そこから車いすを引いて車の近くまで連れていってくれたり、食べ物を買ってきてくれました。私の不注意でみんなに迷惑をかけてしまったのに、いろいろしてくれてうれしかったです。三人の友達を一生大切にしたいと思います。

中2

▽私には、優しくて、いろんなことに一生懸命になれる友だちがいます。困っている人がいたらすぐにとんでいって助けているし、学校での取り組みなども進んでやっている姿にとってもあこがれています。そして、その友だちは、いつも私の行動を後押ししてくれます。私は、挙手することが苦手です。取り組みをしても教えてもらっても、緊張や不安で手を挙げるといことができません。そんな時、その友だちは「挑戦だよ」と言ってから後押ししてくれます。答えがわからない時には、一から説明してくれます。

相手のために自分が行動することは、私はできないのでとても尊敬しています。いつも助けられればかりだけど他の面で支えていきたいです。



中3

中3

☆部活・クラブ

▽野球クラブでは、まだ僕は、体験中で、仲間とあまり話せないし、うまく野球ができませんでした。でも、何回か一緒に練習していくうちに、野球クラブの一員となつて、練習がやりやすくなりました。フライをうまくとれなかった時に3年生の先輩や1・2年生の仲間が「がんばれ」とか「あとちよつとだよ」と声をかけてくれたおかげです。そして、今の野球生活は、とても楽しいです。

中2



中2

▽僕が、野球部を引退する前の話です。僕は、先発をまかされており、とても緊張していました。その時は、県体での初戦ということもあり不安もありました。試合前、相手のノックを見てみると、監督は僕に「自信もっていけよ。大丈夫」と声をかけてくださいました。僕は、この言葉を聞いて「よしがんばろう」という思いが強くなり、堂々と投げることができました。試合は順調に進み、勝ち進むことができ、仲間は「ナイスピッチ」などたくさん声をかけてくれました。僕は、この試合を通して、声をかけられることのうれしさや頼もしさを感じることができました。また、このチームでもっと戦いたいと思うこともできました。これから、監督やチームメイトが僕にしてくれたように、温かい声かけをたくさんしたいと思いました。

中3

▽僕は、サッカーのクラブチームに所属しています。ある日、試合に負けて次の試合を見るためにスタンドへ上がると、すれ違う度にたくさんの人が、「とてもいい試合だったよ」「ナイスプレー」「感動した」などと温かい言葉をかけてくださいました。この言葉を聞いて「この人たちの期待に応えなければならぬ」という気持ちになり、すぐ前を向くことができました。言葉の力はとても偉大だと思いました。

中3

▽サッカーの試合中、ゴールキーパーの僕は、相手の選手と身体接触があり、倒れてしまいました。その時、近くにいたチームメイトや相手の選手までもが「大丈夫？」などの言葉をかけてくれたり、水を持ってきてくれました。ピッチ上では相手のはずなのに、他人へのリスペクトを忘れず動いてくれる姿は、さすがでした。自分も、誰に対してもリスペクトを忘れず、一流のサッカー選手になれるよう頑張っていきたいと決心しました。

中3

▽私は、今年の中体連が終わったら、今の中学校のテニスをやめてクラブチームのテニスの所に転部します。中体連が終わり、3年生の先輩と2年生の先輩と私でお別れ会をしました。その時、2年生の先輩が「短い間だったけれど本当にありがとう」と半泣き状態で私に言ってくれました。私は、その言葉にうるつときていました。でも、その短い間だったからこそ先輩方との思い出がたくさんできました。これからも上位を目指してがんばっていききたいです。

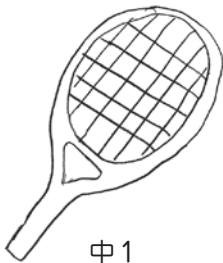
中1

▽中体連の個人戦でシードに入っていました。けれど、初戦でファイナルまで追い込まれてしまいました。私たちはとてもあせり、思うようなプレーができていませんでした。その時、後輩から「頑張つて」という声と応援コールが聞こえてきました。その声を聞いて私たちは、一本一本集中でき勝つことができました。先輩・後輩関係なく応援して励まし合える。こんなテニス部に入れて良かったと心から思いました。

中3

▽私は、小学生の頃からテニスを習っています。中学校に入り初めての試合は中体連でした。東濃大会に出場できるのは市内6ペアのみで、出場のためにコーチや両親がたくさん時間をつくってくれて、自分も練習を大切にして頑張ろうと思いました。そして、市内大会は、ベスト6で東濃大会出場は決定しました。大会は一ヶ月後で、それまでの時間、どんなことが課題なのかをしっかりと考え練習にはげみました。でも、大会の一週間ほど前、ひじが痛くなってしまいあまり練習ができませんでした。そして当日、ひじをテーピングでぐるぐる巻きにして試合にのぞみました。試合前、両親が「練習の成果出せばいいよ」と言ってくれたことを試合中、思い出して頑張ることができました。結果は一回戦負けだったけど、両親やコーチは「よく頑張った」と言ってくれたので、これをバネに次の試合はもっと自分の体調をよくして実力を出せるように練習にはげんでいきたいです。

中1



中1

▽僕は、今年から陸上部の部長になりました。しかし、部員をうまく引っ張ることができず、部全体でやらだらとした雰囲気はただよって、さらに声をかける気がうすれていってしまいました。先生に「やる気が見られんぞ」と言われ怒られて、部全体のやる気も自分のチームを引っ張ろうという思いも弱まりました。しかし、母から「うまくいかなくてもそうしようとするのが大切だよ」という言葉をもらい、もう一度頑張ろうと思うことができました。

中 3

▽僕のちよつといい話は、僕の部活の部長の話です。僕は陸上部で、週に4回くらい部活があります。その4回の部活を動かしてくれているのは部長です。僕たちの部長は、忙しかったり勉強とかもあるのに自分から動いてくれて、先生に練習内容を聞くところから新生生のかんげい会の企画、準備、練習をすすめるところなど部をよくしていくために頑張ってくれています。その部長がいるから部は成り立っています。そんな部長に感謝しています。

中 3

▽私は、10月にある駅伝に出場してほしいと顧問の先生に言われました。そのことを母に伝えたら喜んで「がんばってね。応援しているよ」と温かい言葉をかけてくれました。その言葉で自信がついて、私ならできると前向きな気持ちになりました。応援の言葉は、人を温かい気持ちにさせることができると感じました。

中 2

▽僕は、陸上のクラブに入っています。先日、ぼくのおこがれだった先輩からの引き継ぎがありました。もうクラブに来ることは少なくなってしまうので、最後にスタートの勝負をしました。僕は元々スタートが得意だったけど、先輩に勝っていませんでした。ですが、2年生になってから勝つことができるようになりました。最後の勝負の結果は「負け」でした。いつもの僕だったらくやしくなると思います。でも、その時は、うれしくなりました。最後まで、背中を追わさせてくれた先輩には、感謝しかありません。これからも陸上を頑張っていきたいです。

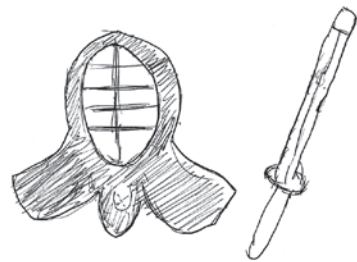
中2

▽僕は陸上クラブに入っています。僕の中学校での目標は100m11秒台です。ずっとその目標を超えられず12秒20がベストタイムでした。毎日練習しました。毎日走り続けました。そして、とうとう引退試合を迎えました。3年間陸上を行い見慣れた風景ですが、なぜかいつも以上に僕の心臓は早く脈打っていました。アップも入念に行いコンディションは最高、テントの下で時を待ちます。いつにも増してその時間は長く感じました。ピストルと同じタイミングで走り出しました。走り出し、走り続け、走り終わりました。組一位。タイムは12秒14で自己ベストですが、11秒台には遠くおよびませんでした。そんな時、後輩が来るのが見えました。「先輩お疲れ」「さすが」今までの努力がむくわれたと感じた瞬間でした。彼らの一言で、僕は清々しい気分です。引退しました。僕は陸上を続けます。彼らへのせめてもの恩返しです。いつか11秒台をとり、その報告をするまで走り続けます。

中3

▽私は、中学校入学の頃から剣道部に所属しています。中体連の東濃大会で個人準優勝したため、県大会に出場できました。県大会は、小学校の頃から始めている人が多く、周りの空気に押しつぶされそうになっていた時に練習相手になってくださった先輩が「県大会に個人でも出場した気分になれたよ。ありがとう」と言ってくれました。負けてしまっただけで試合後には「来年パワーアップした剣道を見られるのを楽しみにしているね」と言ってくれました。支えてくださった先輩に感謝の気持ちを伝えるために日々練習にはげんでいます。

中2



中2

▽私は、剣道部に所属していて、今年、最後の中体連に出場しました。昨年、思うように動けなかったことから、1、2年生だった私たちは「一本取りたい」「二本取って勝ちたい」などそれぞれの目標を持って稽古してきました。そして、新しく入った1年生の子は、「前へ出ていくこと、負けないこと」を目標としていました。剣道の団体戦では、勝つことも大切だけど、自分の役割を理解し果たすことも勝ちにつながる重要なことです。そして、5人全員が自分の目標と役割をやりきったことが、県大会という新たな目標につながりました。自分一人では進めなかった県大会に出場することができたのは、ひとりひとりの明確な目標と仲間がいる意識だと思います。自分の目標と、仲間がいることの大切さを今後も忘れないでいきたいです。

中3

▽ぼくは、剣道で初段に受かりました。もう一人の子も受かり「おかげさまで受かりました。ありがとうございました」としっかりと言っていたけれど、僕は、ぜんぜん言おうとしませんでした。だけど、その人の言葉を聞いて、考えたらお母さんやおじいちゃんに送り迎えをしてもらい、先生に教えてもらい、お金を払って受けさせてもらって受かったのです。みんなの力で受かったことに気づいて「おかげさま」の意味がわかりました。なので、あとからお礼を言いました。中2

▽私は、スピードスケートをやっています。今年全国大会がありました。そこで2位になりました。去年は、惜しくも4位で、あと一步のところまで表彰台を逃しました。すごく悔しくて、その日から練習を限界まで追い込んでやりました。その結果、今年2位になりました。家族みんなが今まで見たことのないくらい笑顔で喜んでくれました。一ヶ月後に私は、新聞に載りました。次の日に、地域のあるおばさんがケーキを持って来てくれました。家族のように「すごい。すごいね」と喜んでくれました。その時「頑張るっていいな」と改めて思いました。そして、地域の繋がりがつてすごいなと感じました。2024年には全国中学大会があります。上の先輩たちと戦います。今年も去年より追い込んで、次はもっとたくさんの人を私の頑張りで笑顔にさせたいと思います。頑張ったごほうびは、物ではなく、みんなの笑顔だと私は感じます。

笑顔っていいな。笑顔って応援だな。

▽私は、中学校3年間バレーボールクラブに所属していました。私は、キャプテンになり「ちゃんとできるかな」「みんなをまとめられるかな」などという不安がありました。春の大会では、初のベスト8でうれしい気持ちもありましたが、二日目にあった試合で私はミスをとくさんしてしまいました。自分でも「あのボールはとれたでしょ」「私がつとがんばっていればもつと点が取れたかもしれない」などと自分のことを責めることしかできませんでした。その時、コーチに呼ばれました。私は、怒られると思っていたら「がんばったね」「今回の試合は何がだめだったと思う？」と私の話を聞いてくれました。今まで私は、キャプテンとして何をすればいいのかわからずにやっていました。でもコーチが私の話を聞いてくれてうれしくもつとがんばろうと思えました。私もコーチのような人を助けて導くことができる人になりたいです。

中3

▽自分は、バスケットボール部に所属していました。補欠なので東濃大会ではいつもベンチです。東濃大会当日に補欠は※オフिशヤルをやることになりました。今までほとんど後輩がオフिशヤルをやっていたのでとても不安でした。すると審判をする人が、自分に「自信ある？なかつたら僕が手で表すからね」とやさしくしてくれたので、安心しました。審判で忙しいのに自分のためにわざわざ手で表してくれるのがとても感動しました。自分もこんなやさしい人になりたいなと思いました。それからノーマミスでオフिशヤルが来ました。ノーマミスなのは審判のおかげです。一生感謝します。

※ゲームの遂行に必要なタイマーなどの仕事

中3

▽僕がバスケの試合をしている時のことでした。自分がマークしている子についていこうとして、足がもつれてこけてしまいました。僕のマークしていた子は、自分がやったわけではないのに「すみません。大丈夫ですか？」と声をわざわざかけてくれました。僕は、とても温かい気持ちになり、正々堂々と勝負することができました。「徳孤ならず必ず隣あり」という言葉があります。彼の周りには必ず人がいます。自分もこんな人格者になりたいと強く思いました。

中3

▽私は、ソフトボールでピッチャーをやっています。でも、試合になると緊張してしまい練習通りに投げることができません。3年生最後の中体連東濃大会で私は、先発ピッチャーでした。でも、なかなかいい球が入らず交代することになりました。交代した後、1年生の子が投げて優勝することができました。けれど、私は、心から喜ぶことができず、年下に負けたような気分になり後悔でいっぱいでした。その次の日、うちのチームは優勝したのでオフでした。でも、私は、グラウンドに練習に行きました。そこには、試合を見ている監督がいました。しばらく投げていると監督が来て「今日一番うれしかったのは、〇〇が練習しに来たことだよ」と言ってくれて私は涙が出ました。すると、監督も一緒に泣いてくれました。私は、とてもうれしかったので、絶対、私の手で監督を東海大会に連れて行こうと決意することができました。

中3



中1

▽私は、水泳をやっている、クラブチームから大会に出場しました。その大会が、休会する前の最後の大会でした。少しでもいい記録を出そうと思い、いつもより緊張していました。大会の週の練習では、あまり調子が上がらず、タイムも遅くなってしまうことが続いて不安な気持ちでいっぱいでした。でも、同じクラブチームだった先輩が「緊張しなくていいよ。最後の大会、思い切り楽しんでおいで」と大会の日の朝、声をかけてくれました。その言葉のおかげで気が楽になりました。「タイムを残そう。ベストを出さなきゃ」と思っていたけれど「最後の大会、やってきたことを出しながら大会を楽しもう」という気持ちに変わりました。そして、4種目中、2種目ベストが出て、全部ベストではなくてくやしかったけれど、それより「大会楽しかった」の方が大きかったです。あの言葉のおかげで最後の大会を楽しむことができました。

中3

▽私は、吹奏楽部に所属しています。去年にあった夏のコンクールで「氷河特急」を演奏しました。初めてだったので金賞を取ってみたいくて、みんなでたくさん練習しました。本番の日、他の学校の吹奏楽部が本当に上手くて、私たちは、どんどん不安になっていきました。そんな時、顧問の先生が「大丈夫。みんなが楽しくやれたら結果なんてどうでもいいよ」と言ってくれました。それを聞いたなら、緊張感のあった空気が一気に和みました。結果は銀賞でした。けれど、みんなが「楽しかったね」と言える演奏になりました。

中3

▽私は、吹奏楽部に入っています。今は、夏コンに向けての練習を中心にやっています。30分ほどみんなで通し練習をした時のことです。私は、楽器を長時間演奏し続けたため指を痛めてしまいました。仲間がそれに気づき「大丈夫？」と心配してくれました。そんな言葉を聞いてうれしくなりました。そして、指が治った後は「また練習をがんばろう」と思えました。自分一人でやっていたら「もう痛いからやめよ」と思っていたと思います。私が、部活に入ってから3年間、ずっと楽しく吹奏楽を続けられているのは、仲間のおかげだと思いました。そう思わせてくれた「大丈夫」という言葉をかけてくれた仲間にも感謝しています。

中3

▽私は、吹奏楽部で、コンクールの演奏の時に打楽器をやりました。私が選んだパートは、たまたまやるところが少なく、思わず「ひまだ」と母にこぼしたことがあります。すると母は「ひまな時でも先輩の演奏をよく聞いておくといいよ。今後のためにもなるからね。ひまなんてないよ。それに、お母さんたちは、〇〇ちゃんのがんばっている姿を見に行くんだよ」と言いました。その言葉がとても嬉しくて、少し涙が出そうになりました。そして、演奏する場所が少なくても、精一杯練習してやり切れました。

中1



中1



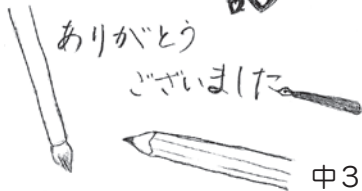
中3

▽私は、中学校の吹奏楽部とクラブに所属しています。練習がたくさんあり、土日はめったに休みがありません。自分なりに頑張っていますが、休みたいと思います。それでも続ける理由は二つ。「笑顔」と「感動」です。音楽というものは、人の心を動かすことができる力を持っています。自分たちが一生懸命練習した曲を披露すると、たくさんの人が笑ってくれます。また、感動して涙を流している人もいます。私は、ステージの上からそんな人たちを見て「今まで頑張ってきてよかった」「これからも頑張ろう」と思えます。だから、音楽が大好きです。

中2

▽私は、週に一度、書写を習いに行っています。その先生は、私の質問や相談に対し、自分の知識を思い出し、親切に答えてくれます。これは、書写に関係した話のみでなく、学校の話、進路の話、世間話とさまざまです。書写の先生だけど、他の事も教えてくれる先生は、私にとってとても信頼できる温かい存在です。私は、中学三年生が終わると同時に書写の習い事も終わるつもりです。小学一年生から通いつづけた書写も残り半年。わずか半年を、今までと変わらず同じように過ごし、少しずつ感謝を伝えていきたいです。書写はやめても、ずっと教えてもらっていた先生の知識を活かし生きていきます。先生のちよつとした気遣いが私のやすらぎの場となったように、私も相手のことを考えた親切な行動を先生から受けつぎ繋げていきます。

話



中3

中3

▽私は、美術部に所属していて、コンテストに出すための作品を描いています。私は、あまり絵を描く方ではなく、美術部に入ったのも運動があまり得意ではないからという理由のため、自分の絵にあまり自信が持っていませんでした。そんな時、部活動の見学で入ってきた一年生が、私の絵を見て「めっちゃ上手いですね」と言ってくれました。初めて自分の絵が褒められて、とても嬉しかったのを覚えています。

中3

▽私は、小学二年生から空手をはじめて今も大会に出ています。前の大会の時、二回戦目にシードに当たり負けました。終わった後に、相手に敬意を払うため握手を求められました。少し悔しかったけど握手してうれしかったです。私も勝っても負けても握手をしていきたいです。

中3

▽私は、ダンスをやっています。ダンスには、発表会やバトル、コンテストなどがあり、私はよくバトルに挑戦しています。いつも入賞ができなくて先生にいい報告ができません。なので、レッスンで先生にコツやアドバイスをもらって練習をしました。したら、バトルで20人ぐらいの中から4位になりました。もっと上へ行けたので悔しい気持ちもあるけど、やっと先生にいい報告ができました。このまま練習を重ねて優勝ができるようになります。今は、チームもやっているの、こっちも優勝ができるように相手と合わせて練習を重ねていきます。

「努力は裏切らない」この言葉を意識していきます。

中1

☆先生ありがとう

▽私たちの学校に、新しいALTの先生が来ることになった時、学級で「私たちの学校は初めてだからきつと緊張するよね」と話していました。その時に、先生が「じゃあ、どうすれば緊張をほぐせるかな？」とおっしゃったので、みんなでそのことについて考えることにしました。いろいろな案から一人の男子が「先生が来た時に、みんなでアーチをつくってお出迎えしよう」という意見に決まりました。当日、アーチをつくって先生をお出迎えしたら、先生が笑顔でくぐっている様子があったので、みんなで先生の緊張をほぐせてよかったなと思ったし、これからも人のために動ける人間でありたいと思いました。

中3

▽前の私は、人の前で話をするのが苦手でした。授業での発言や、行事の振り返りの時は、手をしないで友達の発言を聞いていました。でもある授業を受けている時に先生に「どうして手を上げないの？」と聞かれ、私は「恥ずかしいし、失敗したら笑われるから」と言いました。そして先生は「自分の意見を言うことで、みんなの意見も深まるから言った方がいいよ」と言ったので挙手をしました。発言をすると、クラスのみんなが「同じです」「分かりました」と答えてくれて嬉しかったです。恥ずかしくても、意見を言うとかラスのみんなが答えてくれたので活気のある授業を受けられています。

中2

▽僕は、班長をしています。ある日、成果や課題を発表する学活がありました。僕は、人前で意見を発表することが苦手で言葉がうまくいきません。その時に学校の先生から「あなたはとてもよい意見を持っているから発表してほしい」と言われました。その言葉によって自分の意見に自信を持って堂々と発表することができました。その後先生が「すばらしい意見だったよ。発表してくれてありがとう」と言ってくれました。その言葉によって今後も自信を持って発表することが出来ます。先生とはとてもすばらしい人だなと思いました。

中3

▽私は、6年生の時、委員会の委員長をやっていました。でもそれは、私がやりたくて立候補したのではなく、5年生の時の先生に「どうしてもやってほしい」と、ものすごく薦められ、その勢いに負けてしまい「やる」と言ってしまったのです。元々、人の前に立つのは苦手で、学級委員もやったことはなく、授業の発表もあまりやりませんでした。しかし、委員長になってしまおうと、人の前に立たなければいけないし、もちろん話したりしなければいけません。しかも、クラスの人数だけではなく、全校生徒の前で話さなければいけません。やっていた時は、ものすごく嫌で、委員長をやめようかと考えた時もありました。しかし、今思うと、委員長をやっていたおかげで大人数の前でも話せるようになり、発表も苦ではなくなりました。今は、委員長を経験できたこと、進めてくれた先生にとっても感謝しています。

中1

▽夏休み明けの二学期から、担任の先生が体調不良で一ヶ月間お休みされることになりました。ぎりぎり修学旅行にも行けないタイミングで、驚きや不安が多くありました。そんな中で、学年主任である先生が担任をしてくださることに、私たちの学級がさらに成長するためのサポートをしてくださいました。学級の仲間も、自分たちが成長するチャンスだと捉え、自分で考えて行動することを大切にできるようになりました。先生が体調不良でお休みをされるといのはさびしいことだし、修学旅行に行けないのがすごく残念だけど、それでも自分たちで頑張ろうという意識が芽生え、学級に一体感が生まれたように感じました。このような状況で培った一人一人の力を、学級解散、そして中学校卒業まで伸ばし続け、共に成長してきた仲間を大切にしていきたいと思いました。

▽私は、中学3年生なので受験生です。だからこそ勉強は一生懸命頑張っています。その上で、心配な面もたくさんあり、勉強について悩んでしまうことがあります。そんな時に塾の先生が、勇気づけるような言葉をたくさんかけてくださったので、自然と前向きな気持ちになることができました。また、その言葉があったからこそ、今でも目標に向かって勉強をし続けられています。そして、これから先もその言葉を思い出し、取り組んでいけるようにしたいと思います。

中3

中3



中3

▽去年の三者懇談で担任の先生に、「挙手頑張つて」と言われました。私はコミュニケーション障害がいだったり、大勢の人の前でしゃべると声が震えたりして、自分の意見を伝えることが大の苦手です。しかし、今の担任の先生のおかげもあり、直そうと頑張っています。きっかけは学活の授業でした。その内容は今のクラスの良ささと悪さについてで、悪さで最初に出たのは「声が小さいこと」。これは挙手発言の交流関係の課題に一番重要視されることだと思えます。この意見に先生は、「なぜ声が出ないのか」と問いました。「周りの目を気にしてしまう」や「目立つと誰かに嫌味を言われる」などが原因として挙がりました。この授業はクラスの悪さを改善するためにあるもの。だからこそ私は、自分の欠点をなくすためにも、人前でしゃべることができるようになろうと努力しています。おかげで今は自信を持って生活するのが大事だと気づくことができ、よかつたと思えます。

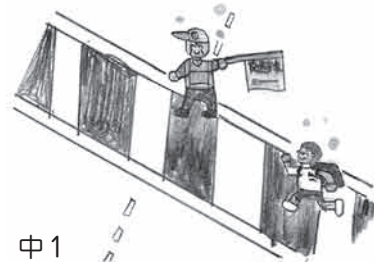
中2

▽私は、理科が苦手です。なので、いつも理科の授業のときはわからなくて「ぼかーん」としてしまいます。その時に、理科の先生は、私のところに来て私が理解するまでわかりやすく教えてくださいます。理科の先生のおかげで前までわからなかったこともわかるようになり、解ける問題が増えました。なので私は、理科の先生に感謝しかありません。今年受験の年だけど、苦手教科を少しでも減らしがんばりたいです。

中3

☆地域の人のつながり

▽僕が毎日登校する時、横断歩道でみんなの安全を守ってくれている黄色い旗を持った指導員の方々がいます。いつも笑顔で話しかけてくれ「今日頑張ったら夏休みやなあ」とか「おい、もう疲れちゃったか？」など元気に接してくれます。だから、僕もできるだけ大きく挨拶をしたり、返事をしたりすることを心がけています。僕が住んでいる家の近所の方はご年配で、何年も「もうそろそろやめようか」と言っているそうです。しかし、指導の仕事が続いていると聞きました。僕は関わったことではないですが、みんなを守ろうとしてくれていた気持ちを持ってきているのだと思います。毎日、朝早くから登校を見届けるのは相当な労力が必要と思いますが、その役割を引き受けて下さり、何年も続けてくれているでしょう。そこまでして安全を守ってくれる地域の人々たちには、本当に感謝です。そして、これからもその気持ちを忘れずに、安全に気をつけて生活したいです。



中1

▽私にいつも手作りのパンやおかしをくれる近所のおばさんがいます。その人に感謝の気持ちで東京土産をあげました。すると「ありがとう。中学校生活楽しんでね」と言ってくれました。感謝をするのは私なのに、そういうことを言ってくれたのがとてもうれしかったです。

中3

▽僕の近所に住んでいるおばちゃんは、いつも元気で、朝会うと挨拶をしてくれます。その中で、たまに話をします。最近「○○くん、庭の草を切ってくれない？」と言われたので、近くに住んでいる友だちに手伝ってもらい草刈りをしました。おばちゃんは「ありがとね。これお駄賃」と言つて、500円とヤクルトを2個ずつくれました。とてもうれしかったです。

中3

▽僕の通学路は、夏になると草が生い茂ってきます。特に困ることはないですが少し邪魔です。ある日、草がさっぱりきれいになくなりました。近所のおじいさんが草を刈ってくれていたのです。自分が特に困るわけでもないのに、みんなのために草を刈ってくれてとても素敵だなと思いました。

中3

▽私の住んでいる団地には、毎朝私たちの通る登下校の道を掃除してくれるおじいさんがいます。おじいさんは、天候が悪い日以外は、欠かさず掃除をしてくれます。そして、私たちが横を通ると「はい、おはよう。気をつけてね」と、優しく挨拶を返してくれます。このおじいさんが、毎日、掃除をしてくれたり、挨拶をしてくれたりするおかげでいつも気持ちよく学校に行くことができます。そして、団地の前がいつもきれいなので、地域の人も、私も気持ちよく暮らすことができます。なので、このおじいさんには、感謝の気持ち伝わるような、元気で明るい挨拶ができるようにしたいです。

中2

▽私の弟が鍵を持っていくのを忘れ、家に誰もいなかったので入れなかったことがありました。それに気づいた隣の家のおじさんとおばさんが、弟に「どうしたの？大丈夫？」と声をかけ毛布を渡して家族が来るまで外で一緒に待ってくれたそうです。私はその話を聞いて、わざわざ弟のために寒いのに一緒に待っていてくれ、とても親切で心優しい方なんだと感動しました。

中3

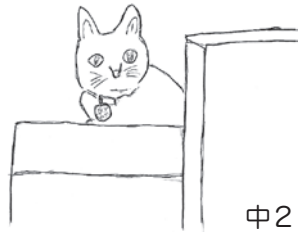
▽私の隣の家には、私が小さいころからお世話になっているおばさんが住んでいます。おばさんは、よく外の花に水やりをしているので、学校帰りや部活帰りなど会うと声をかけてくれます。私は、あまり人と話す事が得意ではなかったので、話しかけてくれても上手に返せず少し困っていました。いつも「今日は何してきたの？」「学校は楽しい？」と笑顔で話しかけてくれるけど、上手に会話を続けられないので申し訳ない気持ちでいっぱいでした。でも何度も話しかけてくれるうちに、私も上手に返せて会話も続くようになりました。そのおかげで話しかけてもらってばかりだった会話も、私から声をかけて笑顔で話せるようになりました。少し苦手だった近所の人との会話も今では楽しくて、日常の中の好きな時間になりました。

中2

▽私の家の近くに、犬を飼っている家があります。私は、その犬が来るまで挨拶程度のつきあいでしたが、思い切って「この犬、毛がサラサラで可愛いですね」と言うと「ありがとう」と返答されて少し話す仲になりました。思い切って行動すると良いことがあると感じました。

中3

▽私の近所に黒猫を飼っている家があります。そこのおじさんやおばさんも「いつでもさわりに来ていいよ」と言ってくれます。でも、最初の方は、名前を呼んでもあまり来てくれなかつたし、来てはすぐ逃げていってしまうことがありました。ですが、学校帰りや休みの日など時間がある時に、その猫を見に行っていました。そしてある時、私が「うちゃん」と名前を呼んだら私の近くに来てくれて「ニャー」と言つて長い間私のそばにいてくれたのでうれしかったです。今では、名前を呼ばなくても自分から来てくれるようになります。そして、その近所のおじさんとおばさんは、いつもアイスを買つて私たちが来るのを待つてくれています。これからも時間があれば、猫に会いに行きたいし、その近所のおじさん、おばさんにも会いに行つて、今日あったことやうれしかったことなどを、たくさん話しに行きたいし、話もいっぱい聞きに行きたいです。



中2

▽私が中学生になったばかりのころ、小学校のころお世話になった近所のボランティアの方に会いました。そして「大きくなつたね。中学校はどう？無理せず頑張るんだよ」と言葉をかけてくれました。その時は、まだ中学校生活に慣れていなくて悩んでいた時でした。温かい言葉をかけてもらつてとても勇気が出てうれしかったです。おかげで、今は楽しく中学校に通っています。

中1

▽私たちの地域では、資源回収が終わった後に公園の草取りをしないといけませんでした。私は、草取りなんかめんどくさいと思っていました。けれど、小学生の子が、一生懸命やっていて、私もがんばってやろうと思いました。草取りが終わった後、小学生の子が、また会えてうれしいと言ってくれてとってもうれしかったです。

中1

▽敬老の日に、子供会の行事として、同じ地区に住むお年寄りの方々に色紙を渡しに、お家を回りました。一緒に渡しに回った小学生の子の「敬老の日おめでとうございます」と、お年寄りの方の「ありがとう。こんなにすきな色紙をいただけ嬉しいわ」というやり取りを見て、すてきな交流がずつと行われているこの地域の一員でよかったなと思いました。また、一人のおばあさんに「いつでも遊びに来てね」と言っていたきました。私とおばあさんは知り合いというわけではありませんが、そう言っていただけで、温かい人と人とのつながりを感じました。

この、お年寄りの方にプレゼントを渡す行事は、私が小学校に入学する前から行われてきましたが、高校生になった来年も参加し、年下の子たちに温かい人と人とのつながりを受け継いでいきたいと思いました。

中3



中3

☆ポランティア

▽中学校で育てた花を地域の小学校や幼稚園に届ける「プロジェクトフラワー」というものに参加しました。ぼくは、自分が学んだ幼稚園に届けに行きました。届けに行った先で先生や園児の子たちが「ありがとうございます。花を大切に育てます」と言ってくれました。とてもうれしい気持ちになりました。参加してよかったです。

中1

▽夏休みに、初めてポランティアを体験しました。片手が動かない人と、生まれつき精神に障がいを持っている人と一緒に製作活動をしました。二人の方は障がいを持っているけれど、工夫しながら丁寧に作業されていたし、とても元気でした。僕は、障がいを持っている方と接することは初めてだったから最初はとても緊張したけれど、二人の方は、そのまま僕に接してくれました。その後、職員の方と一緒に一人暮らしをしているおばあさんの家に誕生日カードとプレゼントを渡しました。80才になるおばあさんは、とても喜んでくれたのでうれしかったです。短い時間だったけれど、なごやかに貴重な体験ができたので、参加してよかったなと思いました。そして、今日会った人たちみんなが幸せで過ごしてほしいなと思いました。

中1



中1

▽資源回収のボランティアに参加しました。私は、ダンボールをトラックに入れる担当になりました。たくさん地域の人がダンボールを持って来てくれました。持って来てくれるほとんどの人が「お願いします」「ありがとうございます」と一言お礼を言ってから、ダンボールを渡してくれました。お礼を言われると心が明るくなるような気がしました。これからも資源回収に参加して、地域のためになるようなことをしたいと思いました。

中2

▽私は、瑞浪花火大会の清掃ボランティアへ行きました。そこには瑞浪市の中学生、地元の方々、市長さん、市の方々などたくさんの方が来ていました。私は、とてもきれいだっただけに花火に感謝の気持ちを含めて拾っていました。その時、持っていたビニール袋が風で飛ばされてしまったので川沿いに取りに行きました。すると、地元のオレンジの服を着たおじさんが「朝早いのにありがとうございます。君みたいな子たちが拾ってくれて花火師さんも喜ぶぞるわい」と言ってくれました。私は「感謝が伝わったんだな。来てよかった」と思いました。花火師さんたちの他にも、瑞浪市のために一人の市民として役に立てたのかなと思ひ、もつと瑞浪市のために働いたり、恩返しをしたりしていききたいです。少しの言葉を言われただけで、気持ちが明るくうれしいと思えたことで、言葉の力は本当に存在すると思いました。来年は、高校生だけど、今度は一人の市民として清掃に参加したいです。中3



中3

▽私が稲津の祭りのボランテアに行った時のことです。その日はとても暑くて倒れそうな目でした。中学生は大人の人たちに教えてもらいながらやっていて、少し重い物を運んだり旗を上げる作業をしていました。みんな疲れてきて、やっと休憩になってコミュニティセンターの中に入った時に私はびっくりしました。そこには、冷やしてあるゼリーや梅干し、スポーツドリンクがあったのです。ボランテアをやっている人のことを気づかっているいろいろな物を用意していたいてとても嬉しかったです。作業中も大人の方も疲れているはずなのに、私たちが質問をする、とても優しく教えてくださり、すごく嬉しかったし、すごいなと思いました。大人、子供関係なく全員で協力して祭りをつくりあげてみんな楽しく稲津の祭りに参加しているのが、すごく良いなと思いました。私もまた、こういう地域のボランテアが行われたら大人になっても参加して、少しでも自分の住んでいる地域に貢献できるようにしたいです。

中3

▽瑞浪市民図書館にボランテアに行きました。返却された本を棚に戻す仕事です。2時間程度作業を続け、終わったという報告をすると「丁寧にやってくれてありがとう」「疲れてない?」と温かい言葉や気づかいの言葉をかけられました。私にとってこのボランテアは、将来の夢のため8割で誰かの手助けができたらという思いが2割だったけど、この時、あの言葉をかけてくださったことで、もっと、誰かの役に立ちたいという思いがふくれあがりました。これからも、誰かに私がいてくれてよかったと思われるような、そんな人間をめざしていきたいです。

中2

▽私が中学2年生になった頃、清掃活動でゴミを集めていたら、近所のおじいさんが「君たちみたいな元気あふれる子が来てくれると助かる」と言ってくれました。心いっぱいに気持ちがあふれました。その後もゴミをたくさん拾うことができました。清掃活動が終わると、地域のみなさんが、顔いっぱいの笑顔で「手伝ってくれてありがとう」と言ってくれました。私は、これからもボランティア活動を積極的に行い、地域や地域の人々に貢献していきたいです。

中2



中2

▽私が、今年の夏休み、福祉のボランティアにいった時に、ボランティア関係者の人が、「昨年も来てくれていたよね」と言ってくれました。私は、昨年同じ場所で違うボランティアをしていました。その時に、やりがいがあつても楽しく社会貢献をすることができたので、再びボランティアをしに来ました。それを覚えてくださっていたことがわかり、とても嬉しく思いました。そして「ボランティアというかけがえのない、やりがいのあることをしていくことも楽しくていいけれど、人に見てもらえたいと知ると、こんなにも誇りが持って頑張りたいと思えるのだな」と思いました。なので、この経験をもとに私はこれからはより、ボランティアを積極的にして、社会貢献をしていきたいと思いました。

中2

おうれしい出来事

▽私は、いつも学校まで自転車で通っています。とても暑い日、いつものように通学路を通っていると、一人のおばあさんがいました。そのおばあさんは、ぼうしをかぶっていました。それでもかなり暑かったはず。でも私が「さようなら」と声をかけると、パッと顔を上げて笑顔で「さようなら、気をつけてね。暑いから熱中症にならないようにね」と声をかけてくれました。自分の方が大変で疲れているはずなのに、こんな言葉をかけてくれるなんて、感動しながら残りの帰り道を帰ったことを今でも覚えています。

中3



中3

▽私は、小学3年生まで、マンションに住んでいました。3年生までは、毎朝登校する時には、近所の部屋のおばあさんと挨拶をしていました。ですが、私が引越してからは、おばあさんと挨拶をする機会もなくなっていました。少しさみしく思っていました。もう6年も経ったので私はそのおばあさんのことを忘れてしまいました。ですが先日、スーパーの入り口でそのおばあさんに「こんにちは」と声をかけられました。初めは、いまいちピンと来ませんでした。挨拶をされたが、二言目に「久しぶりやね」と言われて、おばあさんのことを思い出しました。挨拶をされると、やっぱり嬉しいし、温かい気持ちになりました。

中3

▽夏祭りの時の話です。友達のSちゃんと、食べ物を買に行きました。暗くなってきていたのでライトが近くにあり、周りを明るくしていました。明るい所に虫が多く集まってきていました。ゆかたを着て行っていたので、しゃがむにもしゃがめず、ゆかたに虫がついて来てしまいました。困っていたその時、前に並んでいた三人家族さんが「虫がついているよ」とゆかたについた虫をタオルではらってくれました。小さな子も親さんのまねをして虫を取ってくれました。知らない赤の他人の人でも、話しかけてくれる優しい方が知れた時でした。

中3

▽今年の6月、中学校生活最後の修学旅行へ行きました。行き先は東京です。一日目にあつた班別研修の時、私たちは渋谷、原宿へ向かいました。まず原宿駅に着いた時、竹下通りへ向かおうと道順を調べたり、地図を見ても分からなかったところに、一人の女性が「どうされたんですか？」と聞いてきました。「竹下通りを探してるんですけど」私が、そう言うと「竹下通りね。この道を左に曲がって真つすぐ行くと見えるよ」と教えてくれました。「ありがとうございます」「ありがとうございます」その女性は、真つ先に見ず知らずの私たちに道順を教えて下さいました。そのおかげですぐに目的地に到着することができたので、とても心が温かくなりました。このことを今でも覚えています。なので、私も、街で道に迷っている人を見かけたら、すぐに教えてあげられるような人になりたいです。

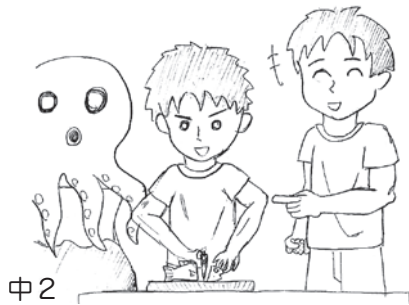
中3



中3

▽僕たち2年生は、5月に日間賀島に行きました。日間賀島の民宿に着くと、民宿の方から、かばんを置く場所や民宿の使い方などをいねいに教えていただきました。また、魚の干物を作る体験をさせていただいた時には、目の前でお手本を見せてくれたり、分からなくなってしまうときには助言を分かりやすくしてくださいました。その言葉があつたから、干物作りや研修がとても楽しい思い出になったと思います。ぼくはその日、日間賀島の人たちの優しさや温かさを知りました。そして、その優しさがだれにでもできることじゃない、人の心を温かくするものだということが分かりました。なので、これからは僕も日間賀島の人達のようにたくさんの人に優しくできるような人になって、一人でも多くの人の心を温かくできるようにしたいです。

▽友だちとスーパーでジュースを買おうとしたら、二人でお金を出し合ってもありませんでした。レジで困っていた僕たちにおばあさんが「出そうか」と言ってくれました、とても嬉しかったです。でも「ジュースを変えたら多分足りるから」とジュースを変えました。そうやって言ってくださったおばあさんの気持ちがとても嬉しく、おばあさんみたいになろうと思えました。僕たちが帰ろうとしていたら、そのおばあさんが「気をつけてね」と言ってくれました。



中2

中2

中3

▽僕はあまり募金をするのがなかったですが、友だちと買い物に行った時、友だちが募金をしていました。友だちに「何で募金をするの？」と問いかけました。すると「20円や30円くらい人のためになるように使っただよ。おつりぐらい入れてもいいやん」と言いました。僕は納得しました。元々人と触れ合ったり仲良くしたり助け合ったりすることが好きでした。友だちのおかげで違う視点でより多くの人を助ける方法を見つけたのです。僕は他にもどんなことができるのだろうと考えました。一番行動に移してできることは身近なことでした。ゴミを拾っていたら近所の人に「ゴミ拾ってくれてありがとね」と言われました。心がはっとして恥ずかしくなりました。それから、ゴミを見つけた時はなるべく拾うようになりました。「一人のためにできること」「多くの人のためにできること」をすることで人に感謝されます。感謝されることが人を助けたという証になると思います。

中1

▽私が犬の散歩をしていると、後ろからおじいさんとおばあさんに声をかけられて、市役所までの道を聞かれました。ちょうど市役所を通るので一緒に行くことにしました。市役所に着くまで、おじいさんとおばあさんと瑞浪市のことについて話しあって、瑞浪市についていいなと改めて感じました。また、市役所に着くと「ありがとう。助かったよ」とお礼を言ってもらえてとてもうれしかったです。人助けって気持ちいいなと思いました。

中2

▽母に「〇〇病院に来て」と言われた時のことです。僕は、その病院に歩いて行きました。病院の場所はだいたいわかっていたけれど、しつかりとした場所は分かっていませんでした。なので迷ってしまいました。母に電話をして場所を聞きましたが、どこかよく分かりませんでした。とても困りました。その時、おじいさんが「どうしたんだい？」と聞いてくださいました。「〇〇病院の場所を教えてください」と言ったら、とてもいいねいに場所を教えてくださいました。「ありがとうございます」と言ったら、おじいさんが笑顔になりました。つられてほくも笑顔になりました。感謝の気持ちを伝えることはとても大切だと思いました。これからも、もっと感謝の気持ちを伝えていきたいです。

中 1

▽私が学校から帰る時、たまに怖モテな人とすれちがうことがあります。いつも、その人の見た目から、「怖そうな人だな」と感じ、挨拶もすることはなく、なんとなく下を向いて歩いていました。ある日、いつものようにその人とすれちがう時、石につまづいてころびそうになってしまいました。「はずかしいな」と思いながら、歩きだそうとした時、「大丈夫でした？」と声をかけてもらいました。少し嬉しかったのと、見た目とは違った声の優しさを感じて、温かい気持ちになりました。次の日から、その人とすれ違う時には、挨拶を心がけるようにしました。しつかり挨拶を返してくれるので、帰り道が少し明るくなった気がします。人は見た目以上の優しさがあることを知って、見た目で判断はやめようと思いました。

中 3

▽ある日、私は地下鉄に乗っていました。乗った時に車内を見わたすと、車イスに乗った男性がいました。私は、車イスに乗って、一人で電車に乗っていて、すごいなと思いました。その思いと同時に「どうやって乗り降りするのだろうか？」と、疑問に思いました。そして、私の降りる駅に来ました。その男性も私と同じ駅で降りました。どうやって降りるんだろうと、見ていると、駅員さんであろう人が来て、スロープのようなものを持って来ました。そのスロープを電車とホームの間に置いて、車イスの男性がスムーズに降りられるようにしていました。私は、その駅員さんの姿を見て「仕事かもしれないけれど、どんな方にも優しくできる方」と思いました。この駅員さんのように、誰にでも優しくできるようになりたいし、このような人が増えると、もっともごしやすい社会になると思います。

中3

▽僕は、友だちと歩いていました。その時、後ろから中国人に声をかけられ「ダイソーまで案内してほしい」と言われました。最初は面倒くさかったし、嫌だなと思っていただけ、ダイソーまで送っていったら、とても喜んでくれていたし、お礼でポカリを買ってもらいました。自分は、最初は嫌だったけれど、やってよかったなと思いました。今、グローバル化が進んでいる中でお互いわからないことが多いと思います。これからは、思いやりを大切にして生活していきたいと思いました。

中3

一般編





中2

▽私は、瑞浪地区まちづくり協議会に参加しています。まちづくり協議会では、子どもたちに楽しんでもらえるイベントを多く検討し、実施しています。その一つが6月12日19時から地元企業で開催された「ホタル観賞会」です。このイベントには大変地元企業さんのご協力をいただいています。駐車場の開放、ホタルがよく見えるように広告塔などの照明を消灯、輪投げ等のゲーム、キックンカーの手配など様々な心遣いがあり、250名以上の参加者があり大盛況でした。地元企業さんは、万尺川の清掃、ホタルの幼虫を放流、ホタルの勉強会など、全ての準備段階から参加くださいました。市が言う「協働のまちづくり」とは、このようなことをいうのだろうと、スタッフ・参加者など全員で実感しました。

50代

▽風の強い日、スーパ一の脇に置かれた空のペットボトルが入った大きな袋が風に吹かれ中身が出て道路にまで飛び散り、通りかかった車にも当たっていました。買物が終わって通りかかった女性が、荷物を持ったまま空のペットボトルを入れる大きな袋が風に飛ばされて道路にいかないように必死でつかみながら一人で拾い集めていました。自分は反対側の歩道に居て手伝うこともできず申し訳ないと思いつながら通り過ぎてしまいました。近くにいた人も手伝うか店員に知らせるなどしてほしいと思いました。関係ないような事でも皆で力合わせて優しい気持ちがあふれる街になるといいなあと感じました。集めた物を飛ばさない様にスーパ一の鉄柱に縛り付けて帰って行かれました。本当に見習いたい行動でした。

60代

▽今も心にくつきりと残っています。あれは夕暮れ時、ポストまでと杖を突きながら葉書を持って出かけたものの、もう先50m程がどうにも辛く立ち止まっている所へ、中学生数人が通りかかりました。思い切って「ポストの前通って行く？」と声を掛けると「通るよ」の返事に「それなら、この葉書頼んでもいい？」と私。すぐさま一人の子が「僕が出してあげる」に「ありがとう」とやれやれ。そしてその子はすぐ猛スピードで葉書を持ち、走り出してみるみるうちにポストへ入れ、また友だちの所へ戻って来て何事もなかったかのように楽しそうに会話をしながら遠ざかって行きました。帰る途中で出してくださいさるとばかり思っていたので、その一瞬の行動にあっけにとられていました。そして気がつきました。その子は、確かに葉書をポストに入れ、私を安心させようとしてくれたのだと。その優しさに胸が熱くなりました。今頃あの子は、何処の高校生になっているかな。

80代

▽私はここ数年ですが、お誘いいただいて毎月20日前後に小学校で朝の挨拶運動をしています。仕事の都合もあり、なかなか参加できず、申し訳ないなと思っていたのですが、集団登校の子どもたちが「あつ、○○さんだ」と声をかけてくれたり、またお迎えしている私たちに元気な声で「おはようございます！」と一人ひとりに頭を下げた挨拶してくれます。子どもたちの笑顔と素直な挨拶にこちらが癒される朝のひと時になっています。これからも子どもたちの笑顔に会いに行きたいと思っています。

60代

▽私の散歩道に、いつ建てられたものか古い大きな石像があり、そこを通るたび昔の人の機械もない時代、よくこんな立派なものが作られたと不思議やら感心やらの気持ちで手を合わせています。以前、何らかの本で読んだ神様も仏様にも「お願いします」ではなくて「ありがとうございます」がいいと書いてありました。このところ「ありがとうございます」と手を合わせてお参りしています。ある日、高校生の男の子が、自転車を止めて手を合わせている姿を見かけ、びっくりしました。近くの子どもでしたか、何でも朝晩、お参りをしてみえるとか。子どもさんには、あまり見かけない光景に、ただびっくりするやらうれしいやら。そして、彼は、きっとこの先、成人し、社会人として頑張り、父親になった時、心優しい立派な人間になれることでしょうね。「また会えないかなあ」と期待の心で杖に助けられ、何だか明るい楽しい彼の家の中が見えるような気分です。帰ってきました。

80代

▽今年の夏、私を産んでくださった母が亡くなりました。コロナ前から施設にお世話になっていましたが、コロナが流行してからは、病院と眼科の通院時に唯一手を握り最近の様子を聞いたりできました。私は、その時は、少しでも孫たちに会わせようと呼びかけて来てもらいました。母もニコニコしてとても嬉しそうで一日でも長く生きてと思いました。

【母に伝えたいこと】私もプラス思考でいたい。尊敬しているよ。私を産んでくれてありがとう。心の中にいつもいるよ。お母さん！

70代

▽地域の役員として出席した会議で偶然、学生時代の先生と同席させていただきました。私が講義を受けたのは30年以上前なのに、当時と変わらない熱意と気さくさで会を進行されるお姿に驚きました。私は熱心な学生でもなく、先生の講義も必須科目の一つだから受講していただけでした。そんな私でも「ちゃんと聞かなければ」と感じた真摯な語り口。それをずっと続けておられる熱量に、自分自身もそれなりに歳を重ねた今、当時とは違う感銘を受けました。

「思いやりとは他者に対する想像力である」

自分のことで精一杯だった若い頃、こんな言葉を投げかけていただけなのは幸運だったと思います。

50代

▽私は、普段車イスで生活しています。今年のお盆は、家族とU S Jに行き、その後、夫と子供は夫の実家へ行き、私は一人で電車を乗り継いで自宅に帰る予定でした。電車の移動は駅員の人の助けと夫が事前に切符を買ってしてくれたので、瑞浪駅までスムーズに帰ることができました。しかし、駅に着いたのが17時過ぎており、コミュニティバスは無い時間だし、車イスが入るタクシーはあるのかなと考えていると、駅員さんが「ちなみにこの後どうやって帰るのですか？」と聞いてくれました。素直に考えていることを言うと「私がタクシーに聞いて来ます」と言い、タクシーの方へ走って行きました。戻ってくるのと笑顔で「車イス乗ります！」と言い、タクシー場まで連れて行ってくれました。駅員さん、どうもありがとうございました。

30代

▽10年前、急性骨髄癌と診断され、8ヶ月個室にて入院暮らし。退院後、一人暮らしの私には、自宅が安全の療養の場でした。その後2ヶ月ごとの通院は、マイカーで8年間通い、白血病は完治したものの、次は肝臓癌と胆のうに石が10個も見つかり、即、開腹手術で、腹部に50cmの傷跡。75才の時です。術後、記念日と称して岐大病院に1年に一回通っています。この日ばかりは、長男や次男が付き添ってくれます。私にとつて自慢の息子たちです。術後1年間、デイサービスを利用しましたが、足腰も弱まり薬の服用のせいでめまいも起こし、車も免許証も手放しました。少しずつですが体調も食生活も甦り、庭仕事も出来るようになりました。コミュニティバスも利用して出かけられます。今日は、友人に誘われて何十年ぶりの図書館にきました。子どもと一緒に利用した記憶はありましたが久しぶりでした。図書カードを再発行してもらい、とりあえず読書の習慣を取り戻すために本日は好きな詩集を3冊借りて帰りました。自己満足に浸っている私です。

70代

▽早朝、一人でウォーキングをしています。最初は起きるのもおっくうで行きたくないと思う日もありました。しかし、一ヶ月も続けると、知らない方々と『あいさつ友だち』になり、毎朝会ったのが楽しみになってきました。今では『あいさつ友だち』に会うためにウォーキングにでかかっています。これからもウォーキングを続けられそうです。

50代

▽私は、健康のために7年ほど前から朝の散歩を始めました。40分から1時間とその日によって違いますが、歩いている途中にいろいろな楽しみを見つけようになりました。四季折々に変わる風景に心を癒され、庭先や畑で丹精込めて作られている野菜や花は、我が家の参考にさせていただけます。中でも同じ時間に同じ辺りを散歩してみえる方々と毎朝出会うことも楽しみのひとつです。見ず知らずの方でも時々お見かけすると、頭を下げるようになり、挨拶をするようにもなります。お見かけしないとどうされたかなと気になります。すれ違いざまに「おはようございませう」と挨拶をいただくだけでうれしくなり「いつまでも暑いねえ」「昨日の雨すごかったね」などと会話ができれば最高です。親しい人でなくても地域の人とかかわりは、心がほっこりします。これからも出会う皆さんに頭を下げ、できるだけ挨拶をしようと思います。

60代

▽瑞浪市内の横断歩道でよく見かける、止まってくれた運転手さんへのお辞儀。黄色い帽子をかぶった小学生は、どの子もよくお辞儀でお礼をしてくれます。中学生、高校生になってもお辞儀でお礼の気持ちを伝えてくれるのはとってもステキなことだと心がほっこりします。今年、小学1年生になった娘も恥ずかしそうにはありますが、ペコリとお辞儀ができるようになりたい。何気ない動作ではありますが、お礼の気持ちを示すお辞儀を大きくなっても続けていきたいなと思う瞬間があり、嬉しく思いました。

〇代

▽国道19号の市原の信号を陶方面に直進していくと、横断歩道に高校生の歩行者が二人見えました。私の車が止まると、高校生二人は軽く会釈して渡って行き、その後から、野球部らしきユニフォーム姿の団体10〜13人位の人たちが小走りに走ってくるのが見えました。これから練習でグランドへ向かう途中でした。キャップを取り、軽く会釈して、しつかり日焼けした笑顔、まぶしいほどの白い歯、3〜4人、2〜3人と次々と小走りで通り抜けて行きました。「あゝ甲子園目指して頑張って練習しているんだな」思わず「頑張れー頑張れーファイト！ファイト！」と口ずさんで通り過ぎるのを見守っていました。ユニフォーム姿の高校生たちは、みんなさわやかな球児たちで、渡り終えてから、キャップを取り「ありがとうございます」と振り返って挨拶してくれました。高校生の球児たちに会ったのは今日が初めてのことでした。今年の甲子園がとても楽しみにになりました。

60代

▽朝、ゴミ出しをしている時、高校生の男子が自転車を通って行き「おはようございます」と気持ちの良い挨拶をしてくれました。一日の始まりにとても気分が良かったです。どこの高校生かわかりませんが、こんな知らないおばさんに挨拶をしてくれたことを嬉しく感じました。高校へ電話をしたいくらいでしたができず、広報で伝えようと思いましたが、自分の子供だったのでできていないだろうと思います。挨拶をしてくれた男の子、ありがとうございます。

60代

▽私は、2年前に大好きだった幼稚園教諭の仕事から離れ、小学生や中学生、幼児と幅広く関わっています。高学年の小学生は、私より力も強く、日々全力で向き合っています。良い時もあればいけないことをしたら注意もします。お互い全力で向き合っていますが、相手に届かず「うざい」「さわるな」という言葉になってしまう時もあります。約2週間後に、再び私に「うざい」と言った子が来て「先生に対しての言葉、いけないこと言つてごめんなさい」と言いに来てくれました。ずっとモヤモヤして気になっていました。最初は怒っていましたでしたが、いけないと思つたとのこと。謝るのも勇気があること。勇気を出して言葉で伝えるに来てくれたこと。私はとても嬉しく、言葉の大切さを改めて実感しました。「ごめんなさい」の一言がこんなに嬉しくて、心がぱつと明るくなりました。心が通つた時、この仕事をして良かったと心から初めて思えました。気づかせてくれてありがとう。

40代

▽家で子どもが宿題をやっている時に、最初は離れて様子を見ていたのですが、しばらくすると、ウトウトとして、気づいたら寝てしまっていたようでした。すると子どもが近くにあったハーフケットを、そつとかけてくれました。「ありがとう」っていうと、「だって、ママが風邪ひくと思つて」と。知らないうちに、ちゃんと優しい心も成長していたんだなど、ちよつとしたことなのに感動して、心が温かくなりました。

50代

▽4年前のことですが、今でもずつと心に残っている出来事があります。私がスーパーに買い物に行った時、カートに上の子が乗り、下の子を抱っこひもで連れていました。たくさんの商品を積み、車まで移動しようとした時、高校生の男の子二人が「大丈夫ですか？手伝いましょうか」と声をかけてくれました。私はびっくりして思わず「大丈夫です」と答えましたが、その二人は、一人は荷物を持ち、一人は大きなカートを店内に戻してくれました。車のトランクまで商品を運んでくれた後、私はお礼を伝えると、お二人は素敵な笑顔でその場から歩いて店内に入って行きました。このことは、今でも本当に心から嬉しく思い感謝しています。人が困っていたり、助けを必要としている時に、自然に声をかけてあげられるという姿に感動しましたし、自分もそうでありたいと思った出来事でした。もう一度、あの時のお二人にお礼を言いたいです。あの時は本当にありがとうございました。

40代



▽息子が大学のオープンキャンパスに行った時のことです。息子は先にオープンキャンパスに参加していたので、私も初めて行くその大学を見学しがてら車で迎えに行きました。駐車場がわからずにうろろうろしていると、サークル活動をしていた学生の一人が「僕が駐車場を案内します！」と先導してくれました。おかげで無事に車を停められました。キャンパスの行き方がわかりません。そこで、その学生に尋ねると、今度は一緒に歩いてキャンパスまで案内してくれました。その道中、サークルや勉強の話、家族の話など、いろんな話をしてくれました。到着し「ここで聞けばわかります」と言って去って行きましたが、こんなおばさんをわざわざ歩いて案内してくれ、話をしてくれた学生に胸が熱くなりました。私も3人の息子がいますが、この学生のように初対面の人でも躊躇することなく、自分の損得を考えず、困った人の助けができる人間になってほしいと思いました。

50代

▽朝6時頃、運動をするために土岐小学校の横を通った時のことです。グラウンドで一人草取りをしている男性がいました。もうすぐ運動会なので、子どもたちのためにしてくれているのかな。こんな朝早くに誰もいない時に、草刈りをしてくださっている姿にとっても感心しました。

40代

▽小学4年からずっとソフトボールをしています。中学生になると活動が厳しくなり、何度となく挫折も味わいました。先輩を追い抜こうと必死に練習をし、毎日父の猛特訓を泣きながら受けたこともありました。でも先輩と共に戦った中学2年の夏。苦しい練習を耐え忍んだ結果、全国大会の切符を得ることが出来ました。残念ながら二回戦敗退でしたが、その時の頑張った気持ちは今でも忘れられません。高校は親元を離れ寮生活で毎日頑張ったのですが、コロナによりほぼ大会が中止と悔しい思いもしました。しかし、同じ目標を目指して戦ったメンバーや先生、そして常に支えてくれた家族には本当に感謝しています。辛くて泣きながら電話した時や負けて悔しい思いをした時、厳しい言葉もあつたけれど、必ず「お疲れ様。よく頑張ったね」と声をかけてくれました。その一言がとても嬉しくて、心の支えとなり、励みとなって、大学生となった今もソフトボールを続けています。

10代

▽いつもよく買ったこ焼き屋さん、子どもたちに声をかけてくれるので、子どもたちはうれしそうにします。作っている様子も透明なところから見られるので、お店の方の笑顔やお仕事しているところもわかり、毎日行きたいぐらいと子どもたちが言います。本当に優しくしていただいています。

〇代



▽小学生の子どもの分団登校の際、毎日顔を出してくださる近所の方がいます。朝早くから、どんなお天気の時も毎日欠かさず子どもたちの様子を見てくださり、子どもたちに温かい言葉をかけて見えなくなるまで見送ってくださいています。下校の時には、近所の方がチラチラと危なくないか見てくださっていたり「おかえりなさい。暑かったね」など声をかけてくださるところを目にします。子どもが小学生になるまでは、なかなか気がつきませんでした。地域の方が子どもたちを見守ってくれるというのがわかりました。私も自分の子だけでなく地域の子も見守っていききたいです。

30代

▽私は、3人の子の母です。夫と私、子3人の5人家族で、夫婦共に実家も遠く、いわゆる核家族です。毎日、夫と協力しながら子どもたちの育児をしています。長期休みなど、やはりいつもより大変になるので、思うように家事も進まず疲れてしまうことが多々ありました。この日も、午後疲れてしまいソファに横になっていると、子どもたちが「お母さん、いつもありがとう。お母さんは、疲れていても、横になって休んでいても、何もなくても100点だよ」と言ってくれました。毎日、ケンカをする子どもたちを、たくさん叱っていたのですが「お母さんは、いつも僕たちのために叱ってくれて、怒っていても大好きだよ」とも言ってくれて、嬉しさと涙が出ました。

〇代

▽NHKラジオ深夜便を聞いて

10月3日、この日は岐阜放送局から瑞浪市の防災についての対談でした。8年前にいち早く各家庭に防災無線ラジオを配布し、市民の皆さまと共に防災意識を高めているとのお話でした。異常気象による災害が危惧されている現在、とても良いことと思います。私は、7年前、永くお世話になった瑞浪を離れましたが、いち早く取り組まれたことに感銘を受けました。また、懐かしくも誇らしく思えました。

80代

▽友に教えられて

友よりTELあり。雑談の中で深夜放送のNHKジャーナルの話聞く。瑞浪市が、全国に先駆けて防災無線を全戸配布したとか。『知らなかった！』それまで戸外の防災行政無線はとも聞きづらく私たちには伝わりにくかった。各戸に配布されて大変重宝しているけれど、こんな人口の少ない小さな瑞浪市が全国の先駆けだったなんて。彼女は過去に住んでいた所が、とても誇らしいと嬉しそうに私に話してくれ、その感動が私にも伝わった。と同時に深夜便の放送でも全国では聞いてくださる人がいるのだなあと改めて教えられた。友にありがとう。

80代

瑞浪市ホームページ掲載の『ちよつといい話』を読んだ方から感想をいただきました。

小学校に勤めています。

仕事がつらくて、眠れずにこのページにたどり着きました。子どもだけでなく大人同士もしんどい言葉が飛び交う中で、心が疲弊しています。

こんなちよつといい話を聞かせてくださりありがとうございます。時々見に来ます。



中3

郵便はがき

郵便切手を貼ってください。

509-6195

瑞浪市上平町1丁目1番地
瑞浪市役所 生活安全課

『ちょっといい話』係 行き

×キトリ

お名前： () 歳
ご住所：〒
電話番号：
『ちょっといい話』の 感想 ・ 応募 (どちらかに○)
通信欄：

×キトリ

読者のみなさまへ

このたびは『ちょっといい話13』を読んでくださって、ありがとうございます。上のはがきをご利用のうえ、ぜひ、ご感想をお聞かせください。みなさまからの『ちょっといい話』のご応募もお待ちしております。

✂
キリトリ

ありがとうございました。

✂ キリトリ -----

ちよつといい話 13

令和6年2月発行

瑞浪市・瑞浪市人権施策推進ネットワーク会議
(瑞浪市 まちづくり推進部 生活安全課)

〒509-6195 瑞浪市上平町1-1
TEL 0572-68-2111 FAX 0572-68-2240
<https://www.city.mizunami.lg.jp/>

この冊子は岐阜県からの助成を受けています。